十役之抄　十一

士大將

848
189

帙
入

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

848
189

十役之抄之内

侍大将之巻上

並解 前

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

享保六季辛丑初夏日

仙翁延作之

848
189

侍大将　巻之上

第一

一侍大将丞之本元の事

夫軍中ノ職掌ハ其役々々ノ司ル所アリ是ヲ多キ者ヲ分チテ夫々ノ頭ヲ定メ離レタルヲ集メテ夫々ノ奉行ヲ定ム爰ニ於テ衆卒ヲ総法令ヲ定メ備ヲ整ヘ紛ヲ全フスルノ要足セ其據ヲモ尋寸子究ントセハ中花周制ノ法五伍ノ行列立テ井田丘役ノ法ニ依テ軍旅卒伍ノ分數分制必ス古今和漢不易ノ矩アリ其伍長卒隊長ノ務ムル所各其矩アリ然レモ中花トイヘモ世々国地ニ依テ

其分合ニ異制アリ其異ナル所ア
異アリ其法中花ノ軍書ニ載ル所多ク中モ明朝ニ至テ
編集ノ諸書ニハ其委クヲ云テ其實ヲ失フカ如キ多シ世遠
ク境隔リ土地国政格別ニシテ其法不
衆ヲ將ル者ノ采幣ヲ取テ指揮シ戦勢ヲ持テ善戦
テ闘争ニ利ヲ得テ勝ヲ制スルノ本意萬代不易ニシテ
孫武子ノ黄帝ノ握機ヲ本トシテ立ル所ノ孫子ノ書独リ其
貴キヲ得心能熟得シテ其實ヲ知者又稀ナレ是ハ其
本元ヲ云ヒ或ハ国天下ノ主タルノ道ハ又將タルノ位ノ者ノ上ニ立
如ニシテ其変ヲ論シ盡サハ又兵法ノ一途ヲ明辨スルモ盡ガラ
ス然ルニ 本朝ノ往昔ヲ以テ見ハ其地ヲ守ル邑君村長
自ツカラアリ是神代ヨリ自然トアル農兵ノ初ニシテ諸
征治ノ功ヲナスノ主出来リ軍策武功備ハルノ人必ス其
長トナル変已ニ如此 神武ノ成功ニシテヨリ以来其
法制舊記ニ粗載之其粗キヲ云ヘカラズ人ノ群衆ナル
ニハ必ス分合ノ術自ツカラニ出テ丈々ノ長アル変和漢
古今不易タリ然ルニ 本朝中古五百餘年来公家
武家分テ國主郡主ノ立所世替リ時変シ五幾
七道ノ国風異ニシテ今世ニ及テ其元祖ヨリノ遺
法ニ依テ家々ノ軍制政法諸役者名目格別ナレ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ヒ皆名将ノ兵ヲ修メ敵ヲ制シ勝利ヲ得タフノ跡ニシテ其基奇正應変ノ實躰ニ於テハ古今諸國相易ル事ナシ故ニ其不易ノ實ヲ取テ時世ニ應スルノ理ヲ盡ス是ヲ兵法ト云軍学ト云爰ニ精粗アリ其精ヲ知テ粗キヲ見レハ其實意ニ通スル事易ク其粗ヲ以テ精ヲ考シモ其實躰ニ徹シ難カラン欤然ルニ和朝當時相應ノ武備甲冑流ノ如ク委キハナシ依之今諸國相應ニテ兵法教習ノ本ト成シ武備ノ分數形名諸士諸役ヲ司ル者其通シテ同シキ利ト懸待戦守ノ別格ナルトヲ知者ハ各武士ノ本意ト成事ナリ其二ヲ以テイヘハ志シヲ顕ハシカラン

盡シ功ヲ遂身ヲ立名ヲ擧禄ヲ持チ或ハ義ヨリテ利ヲ忘シ命ヲモ失ヒ身ヲモ亡ホス事古今ノ勇士戦国治世共ニ其一生ノ興廢始終ヲ以テ鑑シ(カンガミ)ヘシ凡ソ士タル者進トキハ(スヽムガ)退(シリゾク)トキハ殿シ衆ト不同ヲ按群ノ功トス其働タルヤ諸人ノ準拠トナルヘキノ働キナレハ自(ミヅ)カラ他ノ見聞ヲ求メテ證トスル事ナク自然ト其ア心所ノ一隊ノ中ニ於テ称セストモ事ナキノ働ヲ為シ是併ラ一身ノ働ニシテ治國戦勝ノ大功ニハ非ス然レハ其功ノ積ルヲ以テ戦國身ヲ立テ足ヌヨリ一隊ノ長トモ成者多シ故ニ戦テ勝所(カツトコロ)若(ワカ)キ頃ヨリノ武功ト云其志モノ潔キヲ以テ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

場數名誉ノ侍大将ト称セラルヽ者モ又至リ難キノ位アリ智名モナクトモノ位ハ武将トイヘ𪜈至リ難ク知哀カタノ萬巻ノ軍書ニサヘ其位ヲ詮得タル哀希ナリ然シ𪜈是程ニテニハナク𪜈前ニモ勇功ヲ顕スノ士ヲ衆人自然ニ称スルガ如ク智名勇功ヲ離レタル人ノ称シ挙ルニ至ルベキ者欤如此ノ士ハ三才ニ通シ三民ヲ養ヒ古ヲ鑑ミ今ヲ知テ国家ヲ泰カニスルノ大基ヲモ得ル者ナレハ天下国家ノ主ノ助トナル哀大シ然レ𪜈本朝武家ニ於テハ武士タル者軍戦ノ功ナキハ不用誰カ其下知ヲウケンヤ故ニ其品大中小身親疎舊新ニ依テ其侍ノ国制軍備ノ品節ハ替ル𪜈武功アルノ士ヲ用ルハ是通例ニ一将一役トイヘ𪜈其守ル所ヲ重クストモ人ノウケカワサルハ下知キクベカラズ治国トイヘ𪜈此心アルヘキニ今ノ所ノ位ニ至ルハ希ナリ𪜈其一端ヲ得テモ庸人ニハサル所多シ甲列流ニ云所侍大将ノ品々ハ次々ニ述ヘン一隊ノ長ト成一方ヲ司ツテ其主ノ助ケト成ノ将ハ其中ニ於テ猶童キシ治世ニシテ其本元ヲサヱシラサルハ實ヲ失フヘシ右傳ヲ以テ推テ知ベキシ

附ル

侍大将の名目并事

申列流專ラ侍大將ノ名目アル支ハ次々ニ述テ明カシ
其名目依テ来ル所ヲ考ルニ日本上代農兵ヲ集メテ
其長ヲ定メ其上メルハ四道將軍等ノ品アル代モ有テ
天子自カラ出軍シ玉フ支度々アリ
ヲ立テ攝政シ其位ヲ不」踏ヨリ公家ニ武威ノ薄クナル
ノ端シ漸ク 公武相離ルヽノ機シ顯レ朝ニ叛ク者ヲ
征スルニ武士ニ任セテ公家ハ其上ニ立ガ如シ次第ニ律令
相定マルニ到ル 帝都ヲ守ルノ法立テ近衛府ニ大中少
將以下ノ法式定マリ左右兵衛府等皆士
ノ勤ル所ト成リ諸國ニ軍團ヲ置大毅小毅以下ノ法
定ル猶異國ノ守リニ太宰府ニ武士ヲ詰サセ或ハ京都
上番ニ諸國ノ武士ヲ集メ羅城ヲ守ル大番ト云或ハ後ニ
四十八ケ所ノ箇ノ武士ト云ノ類ニヤリ或ハ東國ニ鎮守府
ヲ置或ハ征夷大將軍等ノ定メアリトイヘ従五位下ニ
不過各其人數ヲ下知スルトキハ大小ノ長必スアリ猶時移
リテ禁中ニ滝口内舍人等或ハ藏人所ノ衆ヲ置東
宮ニハ帶刀院中ニハ北面西面武者所等ノ武士ヲ置ニ
宮ニハ侍所アリテ侍長アリ大臣家ニハ侍所ヲ置テ其
別當勾當等アリ是ヨリ前検非違使等ヲ定メラルヽ
武士ヨリ諸國モ又國司ノ下ノ郡司ハ多ク武士ヨリ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

是ヲ持軍團ノ大綱ヲ兼司ル如クニ成行或ハ近辺ヲ
押領シテ自然ト押テ押領使ト称シ庄園ヲ公家ヨリ
支配サセシムレバ押領シテ則何ノ庄司ト称スルノ武士ト
ナル是等皆公家ニテ弓箭ヲ取支ヲ疎ミテ源平両
家ノ多将多ク相継ニテ朝敵退治ノ冠メラレムルニ依
テ自然ト日本ノ武士源家譜代ノ士平家譜代ノ士トニ
カ如クニ成行ニ及テ源平両家ノ将兵ヲ集テ出動ニ及
フトキハ其手ヲ分テ又役人ヲ定ムト見エテ平家物語
盛衰記等ニハ侍大将軍奉行等ノ各目出タリ然ハ
公家ニテ定メタル名目ハ武者所別當侍所別當侍長
瀧口北面西面内舎人所衆検非違使等乃至何ヲカケ
トモ武家ニテ軍戦ノ用ヲタラシムルニハ又別ナルニヨリ侍大
将或ハ軍奉行ナド、名目シタルヨリ起ルナルベシ是皆以
武家ニ武威昌ニ成タルユヘニ
頼朝公天下一統ノ後
武家ノ有ト成鎌倉將軍家代々ニ国々ニ守護地頭ヲ
置テ公家ノ作法漸ク廃レ其以後段々時代移リテ大
永天文永禄ノ頃諸國我有ヲナサントノ戦争止事ナキノ
節侍大將ノ名目諸國ニアル者モ皆右ニ云所ノ依テ来ル所
ニシテ中ニ於テ甲列武田家其格ヲ定ムル所ニシテ今世治
國ニシテ兵ノ用ナキニヨリ必ス侍大將タル人品ニテモ其変

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ニ心ツカサレハ其ナス〳〵キホトモ不」知様ニ成行支治世恐ルヘシ
常ニ公家ノ武ヲ取失ヒタルカ如クナランカ故ニ其職相當
ノ人ハ必ス戰國ノ餘風ヲ心ニ不」失ヲ本意トスヘシ

甲列流侍大將の事

武田家ニ於テ一備ヲ司ルノ將五十騎以上ヲ召連出ルヒ五
百騎千騎ヲ持テモ主ヲ持タルトキハ必ス侍大將ト云其トキハ
五備乃至十備或ハ其餘ニモ分テ戰法奇正ノ妙術ヲ盡シ
攻守應変ノ術ニ叶フヘキ〻其業ヲナス器量ヲ察シ備
定ノ前後一二ノ軽重ニヨル支ハ有澤永負作セル武田備要
抜ヲ以テ是ヲ委ク知ヘキ〻然ルニ其將其國ニ父祖代々其祿
ヲ受傳ヘテ大身ナルアリ其身一世ニ智勇ニ依テ立身ヒ知
行ヲ加増シテ諸士多ク持アリ或ハ同心与カタシテ五十騎
以上ノ備ト成アリ或ハ五十騎皆組ノ士ナルアリ或ハ組ノ士同
心ノ士自分ノ士合テ五十騎以上ノ備ト成アリ其品一様ニ
サレヒ皆共ニ侍大將ノ格ニ又新參ノ城主郡主等其勤々
ノ先手頭ニ隨ヒ出ルヲ相備ト号ス其一二ノ戰功ハ備定ヲ以
テ知ヘシ關戰ノ起ル所動靜ノ大元ハ本大將ノ胸臆ヨリ出
ヘシ進退戰守ノ変化ニ於テハ侍大將ノ能ナル支古戰ヲ以テ
考ヘシ其国ニ大祿ヲ受人數ヲ扱ニ隊長ト成トキハ其
職任亦大シ常ニ勤メ行ハズハ其事冥宜ニ叶フ支堅カルヘシ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

甲列流侍大将と足軽大将の違の事

宋書下巻下ニ武者分ニ馬上五十騎以上持ヲハ侍大将トス
四十騎以下持ヲハ足軽大将トストアリ是ニテ見レハ四十五騎
内外ノ将ハイカヽト不審アル支ニ軍鑑全部ヲ考ルニ四十
一騎ヨリ四十九騎迄ノ将一人モ不見シ武田家ノ軍制四十
騎或ハ五十騎ト差別スルヨリタトヘハ四十五騎ホト持ヘキノ
身代ニテハ五騎ノ増テ持ヲ心懸トシテ則一備ノ法全キ
五十騎ノ侍大将トスルノ列ニナルト心得レハ濟ム支ニ結要
本七之巻ニ五十騎以上ヲ侍大将トス四十九騎以下ヲ足軽大
将トストアリ是ヲ考レハ當時江戸ニテ一萬石以上ヲ大名ト

スル九千九百石以下ヲ寄合トスルノ格ノ如シ武貞按ニ高坂弾正
九千貫ノ知行ニテ騎上一百四十騎ハ自分ノ士ニ外ニ同心ノ士
三百騎餘合テ四百五十騎トシ然ルニ甲列信列ノ千貫ノ知行
ハ三千石ホトニテ列ニシ九千貫ハ四平均ノ知行二萬七千石
ホトナレヘシ是ニテ百十騎ハ一萬石ニ五十騎ト見ル是其的合
ニ是等ノ餘風ニテ當時万石以上ヲ大名分トノ定メナルカ
五十騎トスルモ尤軍役ニ出陣軍役ノ差別ハ外ニ論之身
代ニ依テスルトキハ如此又武田家ニテ御旗本足軽大将共一
人トシテ出ス所ノ人々侍大将トスル者ニ劣ルカ増カトスルホト
ノ身代ニテモ此役タリ差ヲ以テ考ルニ駿列先方信列先方

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

上野先方遠列先方ナド、云テ五騎十騎ヨリ廿騎四十騎迄
ノ将ノ先手頭ニ組合メルヲ組衆ト云五十騎以上乃至百五
七十騎ニテモ先手頭ニ組合メルヲハ相備衆ト云テ侍大将足
軽大将トハ不云足軽大将ト変シメルハ廿一頭トアリ又小備
上総千騎真田源太九衛門三百騎等ハ先方衆ト云ヤウニテモ
又品違ヒテ組相備ナシニ先手ヲ勤ムルヽ或ハ又軍鑑備
定之巻ニ組頭ニテモ組子ニテモナキ人数持トシテ三百騎
ヨリ十騎ニテノ人々ノ名有之是等ヲ以テ考ルニ上方辺
信長公家ニテ人持ト云モ甲列ニテ人数持ト云モ似
メル哉ヽタトヘハ賀府等ニテモ御先代ヨリ人持ノ外組
頭有テ其組々ヲ付メルモアリ組ヲ不付ニモ高下品ヨリ
或ハ人持ニテ足軽ヲ預ルモアリ又小身ヲ平侍ヨリ立身
ニテ足軽ヲ預ルモアリテ其ニ人持ニツキテアリ此等ヲ
以テ知ヘシ甲陽ノ足軽大将ナル一頭ノ内ニモ身代高下ノ心
カ如シ然レハ身代ニ依テ侍大将足軽大将トハ其備
立戦法ノ模様ニ依テ級ヲ付ルノ定法ナリ又武功ノ
役掛ヲ以テ侍大将足軽大将トハ其戦勝ノ用ヲ知テ
働ノ所ノ品違ヒアル哉ナレハ其重キ方ニ付テ云ノ名目
ニテ定リメル所ナキ者ハ先方衆或ハ人数ナトヽ云
相備衆組衆等ノ名目ニ云メリト見テ可ヽ猶次ニ論之

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

侍大将と足軽大将との違ハ畢竟侍立合きと
まよもし或ハ働く所の重きと軽きとによる事
甲州流馬上五十騎ハ廿五騎宛二組トシ一備ノ内
ニ孔陰陽奇正ヲ持足軽五十人長柄五十本旗五本
役者共ニ六十三騎トナル此法ニ準シテ役者共五十
騎ニテノ足軽五十人長柄三十本旗五本ニテモ則一備
ノ法ニ叶フ侍大将トハ是也四十騎以下ハ其法不全ニノ
依テタトヘ足軽ハ四五十人アリトモ足軽五人ニ馬上一騎宛
ヲ指添テ働ク所軽キヲ用ルニヨリ其備ニ旗ヲ不
立也故ニ五騎十騎ヲ持テ足軽十人十五人ヲ以テモ足

軽働キハナル事也又七八十騎百騎持トキハ一手ヲ別手
ニ備ニシテノ小迫合ニ奇正ヲ持し此心ヲ以テ見ルトキハ
侍大将ト云トキハ小迫合ノ働ヲ専務トシ鑓場七段
ノ働モ一手ノ内ニテノ成ホトノ勢ヒアリ其中分五十騎ヲ
定規トスル所ニテ夫ヨリ多キハ小サクモ跡備ヲナシテ
戦勝ノ機ヲ握ル也足軽大将ト云トキハ唯進退ヲ軽
クナシテ専ヲ足軽働ノ小迫合ヨリ軽キ事ヲ専務ト
スルニヨリ兼テ旗ヲモ不立也然レ𪜈足軽一二手ヲ以テ
働クトキハ又一二三ノ法勝ヲ握ルノトリ備ノ心持ヲモ不
離事原美濃上州鬼ノツラニテノ焼働ヲナスカ如シ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

畢竟小迫合モ足輕働モ似タル支ニテ輕キ勝負ト
イヘモ小迫合ハ侍ノ働ヲ重クシ足輕ノ働又
重クスルノ心得シ此心ヲ以テ五十騎ヲ中分トシテ其
内ノ矩ヲ定ムルシ然ルニ當時ハ治世ナレハ四十騎
ニテモ一備ノ法ニモナルヘキカシ殊ニハ信長公　秀吉公
以来諸士ノ身代ヨリナルニヨリ四十騎ホトニテモ一備ニモ
ナルヘシ　加府ニテモ大坂御陣ノトキ一萬石以上ノ備ニ
旗ヲ立メリトヘ云ヘ共又不審アリ　武田家ニテ五十
騎ヲ持ノ侍大將出陣ノトキ半役ニテ出ル支アラバ
則チ廿五騎シ六分役ニテ出バ廿騎シ此トキハ旗ヲ

自分ノ備ニ不立シテ備頭ニ出スベキカトヘ云ノ不審シ
トイヘモ武勇考ルニ五十騎一備ニテ　雜兵共ニ
五百人タルベキヲ半役ニテ二百五十人　六分役ニテ三百
人トヘ云カ如キヲ半役タルヘキシ然ラハ無用ノ雜兵
ヲ減シテ　精銳ノ兵ハ餘リニ減スベカラス必ス　其法
侍數ハ餘リアルカ如クニシテ長柄等ハ次々減スルノ
心持ナルベシ又足輕大將トヘ云者モ是等ノ心得ナルヘキシ
タトヘバ又三分ノ一役等ニテ出ル支アリ　モ必ス侍大將
タリトテ我備ニ立ベキ旗ヲ立ズシテ　備頭ニ出スヘシト思フハ辟見シタトヘハ　戰場ニ出ル騎馬數サヘモ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

極セレハ半役三分役ハ惣様ノ内ニテ減ズルニヨリ必ズ
侍大将足軽大将ノ一身ニハカ、ワラザル支ナリ近キ
ヲ以テメトヘテ云トキハ當時ノ諸大名ノ江戸參
勤道中ノ人數ヲ減セラルレトアリテモ惣人
高ノ支ニテ侍數ヲ鉄炮長柄數ノ不減セガ如シ
是ニテモ知ヘキ扱又侍大将トイヘハ一方ヲ請取
切テ勤ル所品々アリ足軽大将ハ其勤ル所不定
支足軽大将之巻ニ委ク論之侍大将ノ重キ品々ハ
此次々ニ述之

第一

一侍大将ト成テ相勤ムヘキ役儀ノ事并ニ
諸家トリヘキ地形ハ同書ニ委キ事ニ
備定ハ其分国四境ヲ以テ守ル支戦国專ラニ
如此武田家五六箇国ヲ持ツニ初ハ甲州ハカリ
ニテ小山田兵衛尉先祖代々郡内ノ谷村ニ在テ北
條家ノ押エ後ニ信州海津ニ高坂
弾正ヲ指置謙信公ヲ押エ信州牧嶋ニ馬場美濃守
ヲ置テ飛騨越中筋ヲ押エ上州箕輪ニ内藤修理ヲ
置テ関東筋ヲ押エ駿州江尻ニ山縣三郎兵衛ヲ
置テ三州筋ヲ押エ濃州岩村ニ秋山伯耆ヲ置テ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

濃列筋ヲ押ヱ其鋒此下ニ付テ城ヲ守ルノ諸
将アリ或ハ戦法ニ至テノ重キハ先手ノ将トナリ
此下ニ各隨テ出ル或ハ若手ヲ二ノ先トシ或ハ又前備
ノ頭ヲ勤メ或ハ左右ノ脇備各其頭アリ或後備
ハ戦勝ヲ握ル所ニシテ其人品入所ニ遊軍トイフ(ヒ)
其頭アリ小荷駄奉行等其人數多シ
ニ依テ差別アリ或ハ留主居或ハ城ヲ守リ或敵ヲ
押ヱ城ハ後攻ノ押勢或ハ警固頭ノ同明ヲ勤ル等ノ
品々アル支又ハ常支トイフ(ヒ)国家ノ仕置ヲナシ
公事奉行ヲ勤メ獨重キハ兵粮ノ支ヲ統(スベ)計リ
國家ノ興亡ヲ身ニ受ル所アルノ役等ヲ勤ル心信長公
ノ御下ニテモ四境ノ守リ柴田滝川丹羽羽柴等ノ諸
将ヲ分テ守ラシメモフ又加府等ニテモ寛永十五年三ノ
小松大聖寺七尾今石動高岡富山魚津等皆々城
アリテ守ラシメラル、等ノ支アリテ如此常支トイフ(ヒ)家老
ヲ勤メ重キ支ヲ辨スルハ侍大将ノ役ヨリ今世モ猶嶋津
伊達毛利等ノ古キ家ノ邊国ニアルハ大身者其四境ヲ
守ルトゝゝ或ハ又天下ノ城々ノ守リ其城主配リ又老中等
ヲ勤メシメモフモ皆侍大将ノ等ノ
附リ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

譜代新参先方勤方差別の事

武田家ニ於テ譜代ノ侍大将ハ其外脇後備等ノ頭ヲ勤メ常支ノ政務等ノ諸用ヲ辨シ且城ヲ守ル等モ要樞（スウ）ノ地ヲ守リ在番等ニモ新参ノ先方ニ相雜（マジ）テ守ルトイヘ（ド）モ其警固ノ如キ味ヒアリ又新参ノ諸將トイヘ（ド）モ小幡上総其田氏カ如キハ皆信玄公ノ下風ニ依テ亡家ヲ再興セルヲ以テ譜代同事ニ先手ヲ勤ムル是ヲ甲列流忠節人トス此両人ニ準シテ安中尤近モ忠節ヲ存ルニヨリ前備ノ頭ヲ勤ル支モアリ其餘同シ先方衆トス中ニモ信列ハ早ク治リタルニヨリ後々ハ信列先方ハ心安クナリタル味方（ミカタ）味方ヶ原合戦ノ節等ハ脇後備浮勢ノ内ニモ入タリ尤越後筋ノ働キニハ信列先方ハ必ス先手ニ加ルヘシ上列筋ノ先手脇備タルヘシ三列先方奥平氏カ如キハ降参モ近キニヨリ小幡真田ト違ヒテ先手頭トハナラス山縣カ相備タリ如此ノ心得ニテ常支ノ勤ル所モ政務等ニ預ル支ナキヿ他家トイヘ（ド）モ皆此心持シ神君ノ御手鷹クナリタルヿ及ヒテ三列ノ奥平氏等ヲ初メ御味方申ニ依長篠合戦御勝利依之忠節人トシテ又天正十年甲列浸落後武田家ノ諸將諸士御味方ニ参ル是後年ニハ御譜代ノ格タリ其餘ノ諸

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

家トイヘ𪜈皆如此賀府等ニテモ　利家公能列ノ御
移リノトキ長家土肥氏等ハ隨ニ奉ル越中御手遣ノ
トキ菊池家隨奉ル等忠節人ニ真外譜代顯功ノ諸
將ハ不及云大坂御陣ニ藤堂氏ノ先手譜代ノ若者藤堂
新七新参老功ノ渡辺勘兵衛ト先ヲ爭フテ終ニ新七ハ討
死ヲ遂ルヲ二ノ手渡辺捨殺シタルト九主下ノ邊逆トナル
是其雅意ヲ立ルノ甚シキニ又賀府ニテノ支ヲイヘハ越中
蓮沼御手遣ノトキ新参ノ先手ノ山崎庄兵衛危アリシヲ
二ノ手譜代ノ青山佐渡早ク助之テ戰勝全シ是等ハ真實
ニ叶テ主君ノ爲ヲ第一ニスルト云者ニ此類事蹟多ノ新
参ノ將ハ勇力多ク功ヲ以テノ故ニ雅性強キニ譜代ハ
生レ昏リノ若者多ク我功薄キニヨリ爭フ心アリ此兩品ヲ
止テ眞實ニ徹セハ忠勤ナルヘシ又新参ハ馴染薄キ依
テ人ノ機嫌ヲ取テ萬ツ不爭譜代ハ主君ヲ大切ニ思フニアリ
却テ国家ノタメニハ氣色ニ不應支ヲモ申上ルノ心持モアル
支ニ只小身者ノ一端ノ忠節トハ違ヒ大身ノ諸將ハ篤實
忠功ヲ重クスヘシ當時ハ百年ノ治世ニシテ諸家多クハ譜代
ハカリテ新参ハ少ナシ此時ニ當テ少々才覚アル如クニ見エル
トモ新参者ノ輕薄ナル心ノ者ニ似ヘカラス戰国ニテサヘ
新参者ニ忠節人アルヲ知テ當時譜代ノ諸將ハ至

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

忠ヲ思テ主君ノ輔ケトナルヘキ叓ヲ旦暮怠ルヘカラサル
叓不及云トイヘ𪜈當然也

第三

一侍大将ハ惣備の立様を知へき事并惣軍
ノ度量による事

甲州流大小ノ度量ハ更ニ末書結要本等ニ出ストイヘ𪜈先
味方惣軍ノ三分一ハ留守居タル叓是定法也戦国ハ四境ヲ
守ル故也殘リ六七分ハ連出ル其法大數軍勢一萬人内三
千留守居七千連出ルノ内三千先手幾備ニテモ勝テモ負
テモ不構三千旗本幾備ニテモ是ニテ敵ノ旗本エ懸テ無二ニ
勝也千ハ後備ニテ見物ノ如ク勝ヲ握ル也是三段ノ備
ト云寡勢ヲ以テ五倍ノ敵ニモ切勝ノ法信玄公ノ若キ
トキ如此他家トイヘ𪜈皆此格也當時ニ見テ十五六万石
ノ身代ニアタルヘシ又二万ノ人數ナラハ五千留守居ニ置一
萬五千連出ル此トキハ内三千五百先手幾備モ二千百ハ
二ノ手ニテ先手ノ數ホト三千ハ旗本此内ニ前備アリ三千ハ
左右ノ脇備幾手ニモ是旗本ノ勝負ノ助合スルノ備九百ハ
後備六百ハ小荷駄奉行二備トシテ合千五百ハシマリ備也
千五百ハ浮勢トシテ別也此法七段ノ備トモ云山本道鬼
カ傳也此方衆軍ヲ以テ敵ノ寡勢ニ戦勝ヘシ或ハ十倍

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ノ敵ニモ勝ヘキシ是ヨリ二三四万ノ軍勢ニテモ此法ヲ用ル
変既ニ信玄公味方ヶ原合戦ニ三万八千ノ備立此法ニテ立
タリ又右両様ノ間タニテ惣軍一万五千ナラハ五千ハ留守
居置一万連出ルトキハ未タ七段ノ法ニハ不及七千ノ備ノ法ニ
近キシ依之先手三千ハ無二ノ捨ニテ勝負ニ不構旗本ニテ
ニテ必ス勝負ヲ要トス故ニ左右ニ二千脇備ヲ立テ旗本ノ
危キヲ救フヲ要トス二千ハ後備ト小荷駄奉行備ニシテ
後軍ヲ全フスルシ是當時ニ見テ二三十万石ノ家中ノ備如
ナルヘシ信玄公甲列一国ニ信列半国ハカリ治リタル頃ノ備
立如此ニテ專ラ脇備ニ働多アリシシ是ニテ知ヘシ長(ナガ)湫

御一戦ノトキ神君御領國四境ノ守リニ御人數二萬
七千殘サレ二万三千召連ラレテ秀吉公ノ十萬余ノ人數
ニ向テノ御戦畧タルヨリ此捨シ此外五万十万ノ人數ニ
ナリテハ又其手ヲ分テ二ツ三ツ四ツニナシテメトヘハ東海
道中山道ト分テ働キ前軍後軍日ヲ違エテナスノ支
等委クハ述盡シカタシ治世ノ諸將ヨリ是ヲ知ヘシメトヘハ賀
府ノ惣軍出陣ニトキハ七段ノ備ニモ近カル(ケレ)ヒ當時ノ
御在江戸ノ内等御供ノ人數等ヲ備立ルトニ云トキハ三段ノ
法ノ外ニナキシ故ニ大小ノ度量ニ依惣躰ノ備立モ違ヒ
其將々ノ勤メ働ク心持モ違フヲ支シ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

附り

一備の度量を知へき事

是又心得知へき也甲州流ハ侍五十騎組頭二騎弓鉄炮足軽五十人足軽大将二騎役長柄五十本奉行二騎旗五本奉行二騎侍大将一騎纏馬験二本使武者四騎合馬上六十三騎一備ノ法全き也委キ積り左ハ如左

侍五十騎 上下五人連 主一人 鑓持一人 馬一疋 馬取二人 草り取一人 但若黨一人ニメ馬取一人カ 合二百五十人

組頭二騎 上下十人連 主一人 鑓持一人 馬一疋 口取二人 若黨三人 草り取一人 小馬印持一人 甲掛持一人 合廿人

足軽小頭共ニ六十人 但弓十張 鉄炮四十挺 足軽五人ニ小頭一人宛則手替モ勤ル二組トス

足軽大将二騎 上下十人連小役附組頭同意 合廿人

長柄五十本 持者五十人 小頭四人

長柄奉行二騎 上下八人連 主一人 鑓持一人 馬一疋 口取二人 若黨二人 草り取一人 甲掛持一人 合十六人

旗五本纏馬験二本 持者合廿一人 但一本ニ三人掛り

旗奉行二騎 上下八人連 小役附 長柄奉行同事 合十六人

使武者四騎 上下八人連小役附同前 合三十二人

侍大将一騎 歩悴者(カセ) 合八十人内 主一人 若黨三十人 鑓持四人 具足持四人 甲掛持二人 挟箱持四人 馬三疋 口取皆持 合九人 草履取二人 具太鼓一組 持者三人 手弓手筒 持者五人 手明十六人

右人数合五百七十二人 乗馬六十五疋 内馬上六十三騎

右ノ内使武者 長柄奉行 旗奉行等ヲ六人連トし 或ハ組外足軽大将ヲ八人連トし 惣侍ヲ四人連トスレハ人数七十四人減スル

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

ナリ侍大将ノ歩卒者モ六十人ニスレハ又廿人減スル也合テ百弐
人減スレハ四百五十三人トナル末書下巻下四ノ積リニハ四百十一人
ニナル也何分ニモ此格ヲ見テ増減スヘシ

右ノ外人夫一騎ニ二人三人宛相渡ストキハ具足櫃等ヲ持スル也人馬モ應シテ渡スヘシ大方軍勢百人ニ人夫四十人夫馬十足口取十人ニテ其程宜キ也

中分の度量を知れは極る違ひ或大手小手の極る段知へき事

前ニ云所其中分ノ積リ也但足軽ハ侍数ヨリ多キ分ハ其通リニテ五十騎ニ百人ノ足軽ナラハ五組ニシテ足軽大将五人モ有ヘシ長柄ハ侍数ヨリ多キハ無用タリ故ニ五十騎ニハ三十本ニテモ不苦也或ハ侍五拾騎ニ大頭一騎小頭一騎トシテ大頭ハ則侍大将也其時ハ外ニ武者奉行一騎指添也侍大将之自分ノ騎馬歟与力ノ侍アレハ乗使ヲサスル也此等ノ差別ハ五十騎ノ侍ハ組ニテモ与力ニテモ自分ノ騎馬ニテモ何分ニモ品々ヲ知テ備立ニサワラサル様ニ心得ヘキ事也又十騎廿騎ノ小頭ハ侍数ニ応シテ足軽長柄ヲモ定メ足軽五人ニ馬上一騎宛添テ小頭ノ如クシ其将ハ足軽大将ノ心持ニテ一分ノ働ヲナスカ又ハタトヘテイヘハ卅五騎ノ備一ツ十五騎ノ備一ツ廿騎ノ備一ツ此三ツヲ一手ニ作ツテ備ヱテ廿五騎ノ将歟或ハ三将ノ内切者ノ備歟或ハ三将ノ内ニテノ其位ウヱナル備カ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ノ内ニ蜻太ニ一組ヲ申請テ右三備ヲ一手ニ作テ進退ヲ
共ニスルトキハ五十騎一備ノ法トナル但此トキハ旗ハ自分ノ
備ニ不立シテ十騎ニ一本ノ積リヲ以テ備頭又役旗ニ出ス
ヘキ心行列陣取等ニテハ分々タルヘシ備フルトキ組合ノ定メテ
進退一致ノ作法タルヘキ此格ニテタトヘハ又甲騎七騎ヲ組合
或ハ卅五騎七騎三騎五騎ヲ組合シ等アル支甲及流ニ不限
上方鳥モ如此慶長五年関ケ原合戦ノトキ津田長門守一萬石
織田河内守三千両家云談シ一手ノ如ク備ヲ立テ戸田武及ノ
首ヲ織田氏ノ家来得之等ノ支ニテモ知ヘキシ或ハ又五十騎
ヨリ上ノ騎馬数ニテ七八十騎モ持ノ将ハ必ス十騎カ十五騎ニ
弓鉄炮ノ足軽十五人カ廿人ヲ指添別ニ跡ニ備ヲ立テ
一手ノ内ニ別手ヲ持テ後道ノ勝利ヲ得ル心得必ス有ヘシ
慥ナル大頭一騎ヲ添テ下知ヲナサスヘシ此時ハ必ス武者
奉行一騎アリテ二手ヲ乗廻シ戦法ノ下知アレハヨシト
末書下巻下四ニ出之或ハ先手ノ備頭等ハ大方旗本
組ノ備立ノ如クニテ六奉行等モアル支ナレハ七八十騎
ヲ一備ニスル支モアルヘシ又百騎モ持ノ将ハ必ス二備ニシテ
別手一手一手別手ノ法ニ依テ武者奉行一騎ヲ守メ侍
大将自分トニ騎ニテ下知スルカ慥ナル侍大将ノ子カ弟カ
甥カアレハ是ニ備ヲ下知サスル此トキモ旗ハ侍大将ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

居備ニハカリ立ヘシ又カ此様子モ未書下巻下四ニアリ
又小山田兵衛尉カ二百卅騎ヲ以テ武州八王寺表裏ニテ
北条衆ト追合ニ勝タルトキモ五備ニ分テ旗ハ我旗本ハ
カリニ立タル趣未書下巻下ハニアリ又山縣三郎兵衛高坂
弾正等騎馬三百四百ノ餘モ連出ルハ猶更幾備ニモナス
又ニ又小幡上総カ千騎ヲ半役ニテ五百騎連出十備ニ
分又ハ帥ニ五備上総旗本五備ト二段ニ立ルトシ是旗ヲ
立ルモ十備ニ皆立ルニアルヘカラス前ノ説ニテ知ヘキシ是等
ノ様子ヲ知テ其人数ニ依テノ度量ヲ知ヘシ猶委ノ知レトナラハ
此所ニ云盡シ難シ有沢永貞カ作セル案間ノ書圖品々ヲ以テ
モ知或ハ其實ヲ知レトナラハ武貞考ヘ作スル軍役通解
ニテ人数ノ本元ヲ知ヘシ戦勝ノ握機ハ必ス兵法ヲ盡スニアリ
更ニ其レ知ヘキ者カ

一備のお立并に侍大将お立且又纏馬塗物等の事

凡ソ一備ニハ諸器ヲ揃ヘ調ルノ法前ニ云カ如シ然ルニ諸士
ノ指物ヲ對ニスルニ勢イアリテヨキ哉既ニ武田家ニ於テ
小幡上総赤備ヘ典厩ハ黒備ヘ高坂弾正黄備ヘトニカ
如ク一手々々對タリ兜ノ前立物モ甲州流ハ一手々々對
タリトシ他家モ此ニ準シテ對ノ出立ニ勢アル哉ハ井伊家ハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

赤備ヘニテ指物ハ不及云馬ノ鞍ニテ赤クストモ或ハ佐々成政ノ家中ハ金ノ指物ヲ用ヒ勢ヒアリトテ只今賀府ノ御馬廻等ニ是ヲ用ユ或ハ関原合戦ニ秀秋ノ備金ノエツルノ對指物朝日ニカヽヤキ見エタリトヽ然レハ對ニ勢アリ扨侍大将自分ノ出立ハ何分ニテモ用ユヘシ餘リニ目ニ立支ハ不入モノヽし其アシキ腰指母衣等ノ有無勝手次第タルヘシ長湫合戦ニ森武列浅黄ノ母衣ヲ掛テ討死或ハ武田家ニテモ典厩ノ母衣ヲ掛ラルヽトヽし馬場ハ黒鳥毛ノ半月ノ差物ヲ指ト扨又纏一本ハ我人数備ニ付テ進退馬験一本ハ侍大将ノ進退ニ隨テ二本對ニテ少シ様子ヲ替テ割符ノ如クスヘシ

第四

一先手同頭の事

惣シテ備ハ定テ不定モノナレ共其国其家中ノ人数ヲ連テ平陸廣原ニ出テ七段ノ所等ノ備定前後輕重有支ヘ然シテ具家中譜代新参ニヨラス大将ノ侍大将先手名支古今諸国通シテ不相替ノ定理ニシテ五手七手相並ヒ或ハ重ナリ或ハ二三方エ分ル其武功年齢ヲ以テシ或ハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

才智ヲ量テ定ムル支ハ有沢永貞作スル所武田備
要抄ニ於テ委ク論ズルガ先ヲ勤ル支ハ初合戦
ナレハ敵ノ強弱利害ヲモ未ダ知ラテ
タトヒイカナル弱敵ニテモ寔初ノ一戦ハ其身カヲ不盡
ト云支ナケレハ其業不軽勿論戦ニシキノ主意本
大将ノ御一心ニ有所トイヘドモ其日戦ヲ初ムヘキノ遅速前
後ノ篇ハ旗本ヨリ見ユル所ニ非ス増テ其戦場自国
他国山川険易ノ大躰ハ本大将ノ察知シ玉フ所トイヘドモ
其場ノ懸待戦守ノ静早得失ハ其時宜敵ノ変化ニ随ヒ
其備色ニノ遠近奇正善悪ノ轉動ハ初合戦ノ業ヨリ

此等ノ支ヲ委ク知ントセハ軽クテ永貞カ作スル足支抄
武貞カ作スル足支之抄私解等委ク知ントセハ永貞カ
作セル武田備要抄甲陽軍鑑抜要抄等猶知得セバ
兵法ノ一途ヲ論ジテ知ハ其嚆ヲ知テ實意ニモ至ルヘシ
是皆武功薄フシテハ不可叶然ルヲ先手トイヘハ其武勇
名誉抜群スルガ如キヲ以テ老若ニヨラス武功ノ有無ニ
モヨラズ唯ニ先手ヲ挙テ初合戦ヲ望ミ其論ニ及支
古戦其例多キ支ニ故ニ名将ハ先手ヲ勤ル部将ヲ立ル
支敵ノ武功ト其将ノ生得ト校合セテ其筋ヲ守ラセ其
他国ニ軍ヲ起シテ働クトキ先手ノ内ニテノ一二三ヲ定ル

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

支ハ其部将ノ居城ノ遠近ヲ以テ
易ヲモ敵国ノ諸将士ノ善悪利害
馴聞テ知ヲ以テ下(トカ)シ遠キハ不案内ナルニヨリ右ノ裏ナリ
惣軍ノ衆初ニ戦ニ敵ノ鋭気(エイ)ニアタルヲ
軍功未熟ノ将ト云ヒ先鉾ヲ辞スルハ有ヘ
カラス既ニ先手ヲ奉ツテ主ノ為ニ成功ヲ思フ者ハ自他
国四境ノ地形ヲ知テ懸待遅速頻通ノ節避(サケ)賞ヲ
撃虚ヲ変化ノ形ヲ施シ勝コトヲ制セントス是必ス常
ニ習勤メ常ニ心ニ置ニアラスシテ叶フヘケンヤ戦国無才
文盲ノ士モ先手ヲ勤メ戦功アルカ如クナレハ何ソ軍法ヲ
学ニテ心カヲ盡サンヤトシテ平常酒色ニ沉酔シテ武
儀怠慢ノミナル者治世ニ多シ是ヲ知ヘシ戦国ニ生ル武士ハ
餘事不才ニシテ不学ナルモ武儀ハ馴ル所ニシテ自然ト
其利ニ徹シテ地ノ遠近険易モ敵ノ利害競後(セリオクレ)モ必ス
不習ヒ知テ迫合ヲナシ物見ヲ勤メ人ヲ討功ヲ遂唯心
ノ甲斐々々シキ者兵法ハ不知シテ切合ノ勝負ニ利ヲ得ル
カ如シ幼長トナク太刀ノ筋ヲ定メテ利害得失ヲ教ル支
ハ剱術ヲ知者ニアラサレハ不能其剱術ヲ習者身躰
手足ヲナラシ眼勢容貌曲斜ヲ改ル教習ノミニシテ
誠ノ勝負ノ機ニ遠キ者ハ實教ニアラズ此類ヒ皆習ヒ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

トバカリ覚エテ心ニ叙術ノ勝所ヲ得知セサルノ誤ニテ
治世此等多キ者シ軍法ヲ説者猶其邪正ヲ知ヘシ習
知テモ益ナキ支ハ不習シテハシカズ其實ヲ盡シ骨髄ヲ
説者ハ聞得テ後皮肉バカリヲ説
者ハ聞得テモ骨髄ヲ知支叶フヘカラズ此間ヲ察スヘシ
先手ヲ勤ムヘキノ将猶其先手頭ヲ
テハ怠ル支有ヘカラス故ニ学ニ知ルトイフ
ヲ辨フベシ
附リ

組相備衆の事

先手備頭境目一方ヲ請取テ居城スルトキハ其節々ニ
居スルノ領主城主陣ナキトキハ常支皆其節ノ備頭ノ
下知ヲ守リ出陣ノ節ハ備頭ト連立出テ先ニ備ヲ
其下知ヲ受テ戦ヲナス若ハ備頭強勇ニシテ速カナル
トキハ組衆ノ戦ヲ不待シテ先達テ勝負ヲナスニイタル
ハ組衆ノ不覚ニ先手ノ将旗本ノ下知ヲ不待シテモ故ニ組相備ハ必ス頭
戦ヲ初ムル支アルハ其間遠キユヘニ其節ノ境目ニ居シ
ト近キニヨリ共ニ戦ヲナスヘキニ常ニ其節ハ先ニ列ス其次第
備頭ノ法令ヲ守リ出ツ軍ノ節
モ居住ノ地敵方ニ近キヲ一トシテ遠キホト二三四五ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

定ム若道程同シキトキハ圍取ヲ以テ先跡トス或ハ
組相備ノ内ヨリ一組ノ内ニテモ武功アルヲ一トスル等
ノ支モアルベシ是亦シモ先ヲ望ムニヨリ末書下巻下ニ
ニシモ先衆一組ノ内ニテ前後ノ次第ハ其備ノ下知
次第ナリ出陣前誓紙ヲ以テ亦知ニ不背様ニト
アルハ此等ノ支ヲニトノ趣キハ此爭ヒヲ止ンタメシ
或ハ組相備衆ニ不構備頭一番ニ進ンテ戦ヲ初
ムル支モ時ニ依テハ有ヘキ事ト支ヒ然レ共餘リニ過
ルトキハ組相備衆恨ミテ助クルノ心ヲ離ツヘシ武
田家ニテ板垣駿河守信形上田原合戦ニハ終ニ
討死ヲ遂ル是毎戦一分ノ働過タルノ故カトシ
又備頭幾頭モアル内常ニ小組ナルハ大組アル
方ヨリ相備組衆ヲ分加ル等ノ支アリ味方原
合戦ノトキ小山田兵衛尉工朝伊奈駿河守
馬場美濃守工岡部次郎右衛門ヲ加エラル是岡部
モ朝比奈モ駿列先方ニテ軍ヲ山縣三郎兵衛相備
ナレ共東海道筋奈良ノタメ又ハ組少ナキヲ多キヨ
リ補フヒ或ハ南方ノ働キニハ北方ノ諸将脇後備ト成
或ハ境目諸城守兵ノ番手留守居等ニ加リ勤メ
或ハ合戦ノ期出陣ノ節其変化猶多シ故ニ戦国ハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

其年中備定メヲ前年ノ暮ニ定ムルヒ其時ノ
敵ニヨリ働ノ方ノ様子次第ニテ四境ノ隣国ノ和不和
ニ依テ留守居境目ノ人数ヲ置ニ多少アリ故ニ先手ノ
組相備ハ常ニ云違ニ其期ニ至テ多少ヒ不同ナル
者ヒ治国ノ諸家トイヘヒ此心持アリ常ニ組ヲ
分頭ヲ定ムトモ江戸詰アリ或ハ諸ノ役儀アリ或ハ
病健幼壮大身小身智愚ニ依テ年々不定者
ヒ其期至テ違フヘシ或ハ年々内試シアルハ猶更
心定メアリテヨキヒ心得アリテノ上ハ勤ル所ヨキヲリ
故ニ今述ル趣ヲ治国ノ諸侍ハ猶更心定メ有ヘキヒ

組ト頭ト親疎得失の幸
組衆ト備頭ト平常連年相交リ常事交會親
族ノ如ク互ニ難ヲ救ヒ雑事ヲ助ケ其親ミ深キトキハ
戦ノ変ニ臨テモ相救フ支尤右ノ手ノ如ク進退
奇正ノ用モ相叶フガ如シトイヘヒ或ハ其一組ニ黨シ自他ノ
差別深ク害ニ及フ支多ク頭ノ愚慮違ヒ逆儀議
論ニモ及ヒ害ヲナス支モアルヘシ其上前ニ云通リ備
ノ変替様々ナレハ変彼(カシ)入替サレハ軍備不調備頭
若壮老ノ年齢死生難易病健モ不同ナレハ一概ニ定メ
難ヒ近ク賀府ヲ以テイヘハ大坂冬御陣ハ御先手

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

四頭御近陣組御後備浮武者或ハ御国所々ノ御留
守居等アリ翌年夏御陣ノトキハ又新参ノ人モ
アリ或ハ病死ノ人モアリ或ハ御暇下サレタル人モアリテ
様子違ヒ御先手六組ニシテ二手組合ヒ三段トナリ
御後備アリ御留守ノ衆モ少シ違フ是皆人持組ノ様
子ノ違フヲ云ヒ又遠キヲ以イハ尾列小牧御對陣ノ時分
神君ノ御備定ニ石川伯耆守ニハ兼テ御遠類衆或ハ
御譜代衆ヲ指添ラル酒井左衛門尉ニハ新参衆ヲ指
添ラル然ルニ伯列御家ヲ立退上方エ走ルノ時組衆同
心ノ侍等ハ皆不行ニヨリ日頃ノ手柄ト違ヒ我身一ツニテハ半分
モ叶ハサリシトヲ云傳フ是又神君御名誉ノ一ツニ此理ナキ
ニ非ス他国通心ノ支等ハ治国ニ思ヒヨラサル者シ又
長湫御一戦ノトキ初メ秀次ノ崩ルヽヲ長追シテ
堀久太郎秀政ノ手ニ守返サレタルハ榊原小平太大須賀
五郎九衛門聟ニテ主々ハ中好ノ(ヨシ)ヒ家中ノ諸士ハ
何故カ中悪キニ付テ互ニ見知(ミシリ)越(コシ)もせり合テ敵ヲ追
土井豊後長追スベカラズト制スレ共不聞入テ堀氏ノ
メメニ追返サレ五郎九衛門小平太モ引取カ子息モ
穴山衆ノ保坂常陸有馬大学岡部衆ノ岡部五郎兵衛
七八千ニテ守返シ敵ヲ防ク内ニ御前備井伊氏ノ手ニテ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

畢竟御勝利トナル處ヲ以テ思フニ
ハ其頃ハ武田家ヨリ来レル新参衆
山縣衆アリ必ズト常支ノ親疎ニハヨルヘカラズ唯々本
大将ノ御爲ヲ大切ニ存シ戦勝ノ要ヲ心懸ルノ
諸将ハ進退共ニ節ヲ不違、此心ヲ治世猶兼得
シテ親疎ノ心得程アルベキ事
新参降参加勢集勢皆差別の事
新参ノ先方トイヘル段々アリ年ヲ積テ忠勤ヲナス
トキハ譜代ニ準スル支前ニ述ルカ如シ然レ共新参ノ内モ
先方トハ其地ヲ領シ来レル地侍シ甲州家ヲ取信列上列
駿州等ノ先方トハ他家トイヘル段々アリ信長公ノ御下ニ美濃
三人衆トカ称スルモ義濃先方衆トハモ同支ニテ其地ノ者
味方ノ勢ニ仍テ隨順シタルニ是古ヨ源頼義公義家公
相継テ奥州征伐ニ軍功アルヨリ東国ノ諸士押テ主君ノ如ク仰
テ源家譜代ノ士ト称スルカ如キ味ニシテ又他国ニテ武功
アルノ士ヲ招ヒテ大禄ヲ與ヘ先手ヲ勤メシムルニ等ハ前ニモ
藤堂泉州ノ渡辺勘兵衛ヲ招ノカ如ク或ハ明智光秀
カ斎藤内蔵助ヲ招ノカ如キ是多シ利長公ノ本多
安房守ヲ招キ玉フカ如シ又降参トハ隣境ノ将帥ニ不
應シテ降和ヲ入ルヲ云 神君御若キ頃遠州高天神ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

小笠原與八郎降テ御先ヲ勤メシカ如シ信玄公ノ旗下降
参ノ諸将軍鑑ニ出ルカ如シ其内飛列ノ江間常陸カ如キ
甲府ヨリ人質ニ出ス出家タリシヲ還俗セシメ江間右馬允
トシテ足軽大将メラシメ常陸ハ地戦ニ五百騎ノ軍役勤ムヘキト
アルヲ味方ケ原合戦ノトキモ十分一役五十騎ヲ出スシ
出スシ此心ヲ知ヘシ同シ武田家新参降参トイヘ
或ハ越中新川ノ推名肥前守巻種モ地戦ニ千騎テ
品々アリ小幡上総ハ上列国峯ヲ長野信濃守カ
勤ムヘキトノ約ニテ味方ケ原合戦ニハ百七十騎ニテ人数ヲ
ダメニ追落サレ甲府ヨリ走リ込信玄公抱立ラレテ後

上列治リ小幡忠節タルニヨリ本領安堵如此ハ又別シ
信列ノ眞田モ兼テ信玄公ヨリ通スル故譜代同妻シ其外
木曽ハ信玄公ノ子ヲ養子トセラル其外仁科葛山
望月等モ皆子或ハ甥ヲ養子ニセラレ或ハ譜代ノ家老ノ
縁者トセラレ妻等アリ右小幡カ妹ヲ武田信豊ノ妻トシ
或ハ相木市兵衛ヲ山縣カ聟トスルノ類ヒ多シ如此親ト
イヘ共春日弾正ニ苗字ヲ譲リシ高坂入道モ後ニ又心易
リアリ弾正ハ高坂ヲツキテ入道ハ成敗アリトシ
然レハ同様ニテモ様子違フシ或ハ三列ノ山家山方衆
作手田嶺長篠シ是ハ山縣先トバカリニテ軍

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

法ノスベキヲダ仰聞ラレスト結要本七之巻ニ云是ハ味方原合戦ノ前年武田家ヱ降テ間モナキニヨリ如此シ扱又本大将ト身上餘リ不違国主郡主等ノ降参トハ云ヘカラズ是ハ旗下或ハ和談ナトシ云如此ニテ人数ヲ出スヲ加勢ト云、味方原合戦ノトキ北條氏政ヨリノ加勢三頭ヲ百五十騎来レシ其内清水太郎左衛門ハ我備崩レハニヨリ討死ヲ遂ルナリ如此ノ勢(セイ)ハ其家ノ軍法モ不」知ナレハ右ニ云飛列越中衆北條衆ノ如キ集リ勢ハ武田家弓箭第一ノ功者馬場美濃守組相備トストアリ或ハ又云

集リ勢ハ関原一戦ノ如シ敵味方共ニ皆諸国ノ集リ勢ニ是ニハ井伊本多ノ両将ヲ古ヱノ軍奉行ナト云カ如ク指引ノメメ指添ラル近クハ天草一揆ノトキモ西国衆ノ集リ勢皆家々ノ軍法タリ其トキ軍ノ指引初メハ板倉内膳メリ後ハ松平豆州メリ甲州流ニ云所ハ警固目明實検使目付横目ト五段ニ役人ヲ立テ人数ノ下知仕様未書下巻下八九等ニアリ治世トイフ尾此心ヲ知テ其ニ準ズルノ勤ムル所アラハ其當然ニ迷フヘカラス

警固目明實検使ヲ目付横目の事

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

末書下巻下八十萬ノ人数内(ナイ)試ノ所ニ関東ノ諸家
會津黒川ノ衆迄旗下タルヘキ通達アルニヨリ此
惣警固頭ニハ信玄公聟ノ穴山左衛門入道梅雪
扱軍サノ指引ハ関東諸将ノ内功者ノ名高キヲ撰ミ
太田三樂万喜弾正吹聚両侍大将ヲ以テシ猶其上
御譜代衆ノ内合戦ノ實検使ヲ添ラル且目付亦
横目ヲ遣ハシ攻様戦様萬事不乱様トノ定メ
ヒト云是ニハ不限右ノ五様必ズアル支ナリ大軍
ニ成テハ人数ヲ分テ働ヲナス其トキ一方ヲ
分レハ必ス敬ン固頭入支シ此トキハ一類ノ威ヲ

以テ示スヘキニ非ズハ其下知不調其威ト云者ハ一
旦ニナシ難シ漸(ゼン)積(セキ)ノ威ヲ示ス支次々大将ヲ立ル
ノ支ニ云ヘシ扱目明ト云ニモ少シ時ヒアルベシ惣テ
先手ノ備頭ノ内山縣三郎兵衛ハ東海道筋ノ先手
組相備多ク新参降参ノ諸将ニシテ三川衆ノ小軍(コイクサ)
上手ナルニ仕形ヨリ切勝山縣ハ元ヨリ既ニ味方原ノ
トキモ山縣一手五千ニ及ル人数ニテ陣ノトキハ旗本
足軽大将ノ内軍(イクサ)場(バ)ノ考上手ナル横田十郎兵衛ヲ
目明トシテ添ラル高坂弾正信列半国ノ備頭(ソナエガシラ)ト
シテ越後ノ剽敵我カ親兄弟ノ死散ヲ乗越切テ

懸ル如キ敵ニ陰氣ノ高坂ヲ海津ノ鎮トシテ猶
旗本足軽大将ノ内陰気ノ小幡山城伐ノ内ヨリ
物ヲカソエテ取出シ又カゾエテ入ル如ク足軽ヲ仕フ
者ヲ目明トシテ常ニ海津ニ之郭ニ在城セシム
皆越後エノ響キ又ハ組相備モ慥ナ恵フノ徳アリ山縣
カ陽氣ニ横田カ陽気高坂カ陰気ニ小幡カ陰気
皆同気相求メテ詮合一変スルヲ以テノ故ナリ
猶委クハ足軽大将ノ事ヲ論スル所ニ出ス又右ニ云太
田方喜カ如キハ次ニ心持違フ(ヘキハ関東ノ集リ勢ヲ
下知スルニハ関東ニテ名高キ此両将ヲ用ル心ナルヘシ

共ニ通シテ目明ノ心ナリ扱實検使ハ合戦ノ當日ニ
御旗本ヨリ足軽大将以下使番或ハ誰ニテモ遣ハサル
ヘナリ其日ノ様子ヲ見ルタメニシテ其者ノ智覚ヲ以テ
轉変ノ働キアル支ハ皆他篇ニ委ク述ル通リナリ外ニ
月付猶横目ヲ遣シ其善悪様子ヲ見ルタメトシ
古エ軍團ヲ置ニ大毅小毅軍盈軍曹以下段々ヲ
置ノ類ヒアリ大軍ヲ働スニハ猶此品其人品重クナル
支ナリ故ニ治世トテモ品ニヨリ是ニ準スルノ支アルヘシ
考エ知テ其宜キヲナスベキ支ヒ前備等ニ到テモ
猶警固等心持アリ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

武者大将の事

甚勘る事

新品前集ニ其事出タリ武田家ニ於テ先手ノ備頭七八人ノ内馬場内藤山縣高坂四人ノ家老武者大将トシテ先手ノ内ニテ惣シテ武者ノ差別ヲナストゝ云軍鑑所々ニ軍ノ内談頭ヲ揃ル時山縣ハ御懸リ被成テ然ルベシト申上ル内藤ハ何方ニ御働キ被成様ヲ申上ル高坂ハテ然ルベシト申上ル馬場ハ合戦ノ被成様ヲ申上ル高坂イツトテモ御合戦御無用ト申上ル信玄公ハ其御批判者シトアリ是其心違タルニ非ス皆同様ニテ吹シ其様子ノ差(タガ)ヒシ信玄公ノ御心ヨセノ事ニ御批判落着スト云

是厚キ支シ人智ノ及ヲ所一様ナラス故ニ其人々ノ存寄ヲ聞テ決定スルハ御大将ノ心ニアリ信長公ノ御下ニテモ懸ル柴田ニ退佐久間ト諺(コトバザ)セシモ此類ニシ神君モ如此(カクノ)タリシトゝ云合戦ヲナス哉不軽ヲ知ヘシ

又武田家ニテ山縣内藤高坂三人ノ武者大将各年ノ暮ニハ来年何方ニ向テノ御働(ハタラキ)ハ備立ノ様子手配ヲ人々存寄ヲ居城々々ニテ惣ノ相調ニ馬場美濃守方迄遣ス馬場三人ノ書立ヲ見テ自分ノ了見ヲ加ニ甲府ニ持参シ信玄公ト相談シテ備定ヲ極メ右三人ニ申遣シ惣様ニ云渡ストアリ爰ヲ以テ知ヘシ其役ノ

童キ支ヲ又山縣ハ小イケサノ上手三川衆ノ透間ヲ
討ユル敵ニ逢テモ終ニ不仕員、内藤ハ敵ニ逢テ此方
ヱカサヲ取テ敵ニ勢ヒヲ持セス高坂ハ越後ノ剛敵
ニ逢テモ能守テ不取合、位ヲ取テ不動馬場ハ進退
戦守懸待大小ノ機ヲ知タル将ゝ故ニ敵城ヲ攻ルニ
敵ノ後詰ノ押ニ勢ハ必ス馬場ヲ以テス初メハ此押
勢丼利備前ナリ備前討死ノ後馬場ト云ヽ馬場
ハ惣先手戦ノ終ル所尤ノ方ニイツトテモ備ルシ高坂
内藤両将ノ内一将ハ先手ノ内ノ眞中ニ備フルナリ
扱東海道筋ハ山縣岡東筋ハ内藤越後筋ハ高坂ヲ以

テ右ノ先トシテ一番合戦トス是敵トノ引箭ノ釣合
ヲ考ヘテ向フノ将トシテ武者大将ノ本旨メルカ是等ヲ
準拠トスベシ其餘近代他家トイヘ共武者大将ト云アル
支ニ近ノ賀府ヲ以テイヘハ大坂両御陣ノ節御先手頭
内本多安房守大夢ニ山崎岡衆両人武者大将メリ
後年ニ岡衆大切ニ相煩フノ節秋常公御尋ニ其方病死
セハ誰ヲ代リニ仰付ラレントアルニ其儀ハ御意ニ二カセラル
ヘキ支トテ御請不申サ再三御尋ノトキ岡衆申ハ
御若キ殿様カヤウノ支ヲ申上候ヘト再三ノ御意
アルニ私ノ心底ヲ不申上モ恐入儀ナレハ申上候私

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

死後ニ何ノ御咄シキ哉候ハヽ富田越後守ヨリ外
唯今可被仰付者不ニ存當ト申ニ付咄終死後ハ越後
守ヲ以テ　御心當ノ御内意アリシトヲ傳フ治世ニハ
武者大將武者奉行等ハ定リテ無之哉ナリ武者ノ名
目起ル哉等ノ考ヱハ武者奉行ヲ論スル所ニ委シ故ニ
畧之武者大將ハ先手頭ノ内ニテ又秀ル品ナレハト治世
ノ諸將必ズ戰國ノ餘風ヲ知テ兵ヲ知ノ位ニ到ルヘキヲ
忘ルヘカラズ

第二

一二之先の事

先手ノ内ニ二之先ヲ定ル哉ハ山本勘介甲州ヲ来テ申上ル
所ニテ餘国ノ備ハ先備内ニ一之手敵ト戰トキ亦
其次ノ手ヲ以テ相救フテ利ヲ得然レハ先手十備ヲハ
五度ニ勝負改ルノミ故ニ甲州流ハ先手七手ナレハ
又一門ノ侍大將或ハ若手ノ侍大將ヲ先手ノ數ホド
七手ニノ先衆ト定メ一之先ノ老功ノ侍大將トノ武功
年齢身躰親疎ヲ以テ一二ノ組合其釣合ヲ用ル哉
甲陽ノ備童々ノ傳来アリ委クハ梧井庵永貞作ル
武田備要抜ニ其傳ヲ盡ス更ニ知ヘシ其法ノ詳カナル
哉ヲ然ニ先手ト成ル各、其武功心得有哉

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

心私ノ意恨爭ヲ以テ遅ク助ケテ味方ヲ殺スハ大坂陣ハ
藤堂家ノ先手藤堂新七ヲ二ノ手ノ渡辺勘兵衛助ル
支遅クテ討死サセシニ似タリ或ハ功ヲ爭ヒ早ク懸テ
一二混雜シ共ニ崩ルヽカ如キハ其武功ノ不足シ上方辺
多クハ一二ノ差別不分明シテ此類ヒ多ク只初合戦
ノ勝負ニ爭フ支迄ノ様ナルニヨリ
信長公ノ十三段ノ備崩ルヽカ如シ惣シテ備一二之間
五町カ三町ヲアクル是一ノ手ノ勝負ヲ見テカヽルニ
勢ヒヲ取リ若一ノ手崩ルトモ共ニヲサレズシテヨシ或ハ山川
ノ節所ハ其間近ク早ク助合スルヲ要トス是等ヲ度量
トゝ或ハ定法ヲイヘハ一之先ノ人數六千ナラハ二之先ハ
二千トゝガ如ク三分一ヲ以テス或ハ乗ジテ先手若
人數スクナクハ二之手多キ支モアルベシ是數（スウ）称（シャウ）ナリ
戦ヲナスニ到テ懸待ノ節表裏奇正ノ妙ヲ盡ス
ノ術ハ二之先ニアリ敵ノ多少強弱競（キソヒ）後（アト）時節地
形ヲ計知シ其日ノ勝敗ヲ先知シテ戦ヲ始ムルハ先
手ノ當務シ然ニ其変化ハ時ニ在テ限リナシタトヒ
二ノ先手ト不相分ニ初合戦ニノ合戦ヲ請取ノ
諸將能其用ヲ察シテ勝ヲ取ヘキシ近キ賀府ヲ
以テイヘハ大坂夏ノ御陣ニハ御先手六頭ヲ二頭

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

宛組合セトノ御定メシ是其内ニ一二ノ定メト見ヘキ
カ當時ハ其摸様違テ寂初大坂冬ノ御陣ニ御先手
四頭四手ノ如ク二近キカ或ハ又信玄公トイヘトモ
一二ヲ先手惣ニ定リ戦法全キハ時方ケ原ノ一戦迄シ
其餘人數不レ多内ハ二ヲ先ノ定メモ不レ惣韮崎合戦
或ハ瀬澤合戦等ノ如ク一萬ニハ不レ及トキノ戦法ハ
皆先手戦ヲ初ムレハ旗本ヲ以テ必ス二ノ見ヲ入ラル
故ニ日ノ内ニ旗本ノ手ニ逢ヒ度三度四度ニ及ヒ先手
ハ敵ノ鋭気ヲ砕ク事ノ一度バカリナル事多キシ
然レハ二ノ手ハ次シ仕易キ方モアルカ又味方ケ原ノ
合戦ニ一ヲ先山縣三郎兵衛備エ神君御旗本ヲ以テ
懸リ給フ三列先方共度々御鉾先ニ恐レ居ルニ
ヨリ皆足並ヲ以テ崩レカヽリ山縣モ友押ニ押レテ
既ニ山縣一手大敗ニ及フベキ所ニ二ヲ手ノ四郎勝頼公
崩レカヽル山縣勢ヲ右ノ方エタヽキ除テ漸ク二ヲ手
ノ目通リヲ過ル頃敵ヲ切崩ス。太鼓ヲ打テ進シテ
濱松衆ニ押迎フ此勢ニ依テ一ヲ手ノ山縣勢モ守返
ス是一ハ変シテ二ト成リ二ハ変シテ一ト成ル奇正相成ノ術
ニ叶フ同シク小荷駄奉行備ノ内米倉丹後守一手信長公
指圖ニ依テ山縣カ右ノ方ヨリ濱松衆ノ二ノ手タリシ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

酒井左衛門尉手ヲ懸ルニ鑓モ不合シテ崩レ、此等ノ勢ヲ以テ山縣討死モ不遂大敗ナクシテ守返スシ是ニテモ知ベシ二ノ間ノ度量懸ルベキ塩合ヒ且ツ二之見ノ横鑓ヲ入ルノ模様如此タル支ヲ又同ク合戦ニ先手ノ内左ハ端ノ馬場美濃守ハ組相備トノ備ノ間ノ近キトキ次シ退テ備ヲ立ルニ馬場カ備先ヲハ遠ク列ニテ名高キ小笠原與八郎手ニテ切テ懸リ小田原ヨリノ加勢崩レテ清水太郎左衛門戦死猶崩レカヽルヲ馬場ニ之手ノ助ヲ不頼一手ノ内ニテ一二ヲ持ッ敵ヲ切崩ス是其武功ノ厚キヲ以テシニノ勝負ヲ持支如此シ猶勝敗ノ支跡モ多シ

附リ

甲州流一二ノ合多クハ二ノ先ニ一家ヲ用ル事

前ニ云通リ一二ノ釣合ハ時ニヨルトイヘ共信玄公元亀ノ頃惣軍四萬ニ及フノ備立數十年ノ練兵ノ跡ヲ以テ鑓トシテ大小ノ変化ハ時宜ニヨルヘキ支ナレハ出ス一ノ手山縣ニノ手勝頼公ハ山縣ハ遠参両列ニ向テノ先手ニテ第一上方發向ノナラシニ先手ノ内ニテ駿州江尻ニ在城ナレハ其筋ノ一ヲ司ル組相備ハ新参ノ降参ノ大身多キニ武功ト云筋目ト云二之見ニ勝頼公ト定メテ此威ヲ以テ

組相備ヲ下知シ敵ニモ其威ヲ示スノ心持アリ高坂
武田左衛門佐ヲ二之見トアルモ此心ニ近ク安ク違ヘル哀
モアリ内藤ハ関東筋ノ
押立ナレハ第テ穴山梅雪ヲ二之見ト組合関東ニ真威
ヲ示シ後ニハ関東ノ惣警固穴山トスルノ心持アリ
馬場ニ尾曽板垣トアルハ馬場武功家上ノ将ヘル
ヨリ二之手ノ助ヲ不頼ノ機アリ故ニ一門ノ内器量
無構組合セタルト小幡ニ武田典厩トアルハ縁者ヘル
ヨリ助合スルニヨキタメ同シ一家ノ内是ヲ二之見ト
組合スルト真田ニ跡部大炊助ハ真田ハ新参ナレドモ
忠節譜代ニ準ズルカモ組ナレニ二百五十騎ニテ勤ム
ニ之手ニ跡部ハ武田譜代ノ大身ナレ共ホメ武功薄
クシ三百騎ヲ持ナガラ先手ヲ勤ル程ニナキヨリ如此
組合スル小山田ニ土屋右衛門尉ハ小山田モ譜代ノ将
ニテ先手ノ内ニテハ未ダ年若シ土屋モ譜代ニテ畢竟
先手頭トナルヘキ人躰見習ニノタメメニノ手ト組合スル
ト如此段々ノ様子有テ二之先ノ釣合違ヲ支ヘシ
一様ニ心得ヘカラズ
扨テ武田家一家衆大中小ノ内用捨の事に
一方の大将或ハ大将代ヲ或ハ床机代ヒ等の

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

品有之事

大身ノ一家衆ハ二之先ニ若キ衆ヲ用或ハ信玄公ノ舎弟逍遥軒信廉ヲ後備トシ其組ニ多クハ皆一家ノ大身ヲ用ヒ或時ハ二之見トシ或時ハ後備トシ時ニ依テ替ル前條ニ云ノ外望月甚八郎仁科五郎葛山三郎等是レ又中身ノ一家ハ信玄公ノ舎弟武田兵庫殿十五騎ニテ前備ノ内ニテ則前備ノ警固頭ノ如シ小身一家ハ又其弟武田甲斐守三騎ニテ是モ前備ノ内ニアリテ前備左ノ方ノ警固ニ似メリ或ハ小身ノ遠類ハ從弟ノ大尾井新九郎ヲ初メ近習ノ番頭トス譜代ノ侍ノ頭ニハ遠類ノ威ヲ以テ下知ヨリ調フトノ支シ然ルニ信玄公一二之先手合テ十四手ノ内惣警固ハ四郎勝頼公ノ惣目明(メアカシ)ノ心ハ馬場美濃守ニ是先手ハ数日ヲ隔テ働ク支大軍ニハ必スアル支ニ此トキ旗本ト離レ、支遠キトキハ勝頼公則一方ノ大将トスル者ニ又前備等ノ如キモ旗本ト離レ支ナシトイヘ共時ニヨリテ一日カ半日離レ、支アレハ其一日半日ノ内ノ警固武田兵庫ニ是ハ大将代リトスル者ニテ一方ノ大将トスルホトノ支ニ非ス又御旗本ニテ信玄公用事有テ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

敵城頓見カ敵ノ備見定メニ出玉フトキ一時半時
ノ間々御床机代リニ居ルハ武田甲斐守ヲ用ヒラ
ルトシ或ハ濃州ノ土岐氏浸落ノ後信玄公ノ咄衆
ト成居玉フ其本高家ニテ馳走アリ客人分ニテ
ニシテス此人ヲモ床机代リニセラレシトシ右ノ一二等
ヲ知ベシ是常々其威ヲ示シ置サルトキハ下ニテ
右三等共ニ用ル支合怠セサルモノシ尤三等ニテ高下
輕重ハ自ツカラニ知ル支シ其威ヲ示ス支ニ付テ
一朝一夕ニ不」成支ハ末書下巻下ハニ玄趣キ信玄公
「家衆ノ称勝頼信連信豊此三人ヲ様付ニ申宛山ヲ
殿付ニトアリテノ三年後ニ十萬ノ人数ヲ試ノトキ四郎勝頼ニ
二万五千東海道ヲ登リ信豊ニ二万五千木曽路ヲ
登リ信玄公二万五千東海道ヲニ見ニ登リ道遥軒信連
三万五千ハ甲府ノ留守ニテ有無ノ定メ穴山梅雪ニ関東
諸家ノ人數ヲ引合セ惣警固トシテ浮勢ト定メラル、
ノトキ連レ其威ヲ示サルノ味ヒ知ルヘシトアリ他家トイヘ
ヒ是ニ準スルノ品アル支ヒ近ノハ賀府ヲ以テモ知ヘシ
家前利常公御現在ノトキハ富山大聖寺ノ支ヲ
淡路守様飛騨守様ト金澤ニ申スヲ利常公御
逝去ノ後ニ年寄中ヨリ云訴シ有之」ヒ淡路守殿飛騨守殿

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』　請求記号 848-189
ガラス使用

ト唱ヘメリシニ又後年ニ到テ御両方ヒニ様付ニ
申ヘシトノ御定メトナル是則時節相應ニ依テ其
威ノ増減ニ品アル支ニ其矩ニ叶フトゝヘキ者乎
其餘前田家ノ人持ハ身代ヨリハ格式モヨリ列モヨシ
小松ノ城在番ニモ一人ハ前田氏ヲ用ヒラル、等ノ品
アリ又末書下巻下九ニゝ信玄公天下ヲ知バノナラシ
ニ右ニゝ三四人ノ一方ノ大將メラントゝ一家衆ハ日
頃ノナラシニ遵ヒ信玄公ニ不ル離、捨ノナラシニテ其ヨリ
軽キ一門衆ハ京都在番ノ諸大將ノ警固トシテ一
頭宛一年代リニ在京ト定メタリ是モ考フルニ

當時迫ノ内江戸ニテ御三家ノ尾張紀列ハ一年
代リニ御在国水戸ハ折々御在国甲府館林ノ御
両殿ハ常江戸トアリメルシ然ルニ家宣公薨御
ノ後家継公御幼少ノ間ハ尾張紀列水戸ノ
御三人様共ニ常在江戸トアリタリ當時ハ又
最前ノ通リニナル是モ皆時アル支共ニ更ニ知ヘシ

第六

一前備の事

古今事蹟通計シテ自ヅカラ知ル支ヲ

先手戦敗ジテ旗本戦ニ及ブトキ其旗本ニ先立テ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』　請求記号 848-189
ガラス使用

戦フノ正兵也其変ニ依テ敵我先手旗本ノ間ヲ取切
或ハ先手旗本ヲ二方三方エ筋ヲ分テ働クノトキハ旗本
ノ先ハ前備也先手ニ續キテ中身ノ侍大将譜代或
ハ先方ノ内忠節ノ将ニテモ晉ルゝ勤之テ旗本組ノ内
タリ然ルニ甲州流ニ旗本多勢ナルトキハ旗本組ノ
中身譜代ノ足軽大将或ハ新参小身ノ組幾手ニテ
モ前備トシテ旗本ノ近習大小ヲ一隊ニシテ陰陽奇
正ノ戦法ヲナス其内前備ノ組合セノ衆ハ遊軍ノ用
ニモ代リ時ニヨリテハ城ヲモ守リ或ハ敵ヲ攻衆ニモ
加ハリ戦切ヲ遂ル事モアリ其時宜ニヨリ不同ナリ

・信玄公前備衆ノ内今福浄閑駿州久能ノ城ニ篭リ又
駒井右京ハ組ノ在郷近習トモニ相州深澤ニ篭ル等
ノ事アリ或ハ勝頼公ノ代ニ参州長篠合戦ノ節鳶巣（トビガス）
ノ城ニハ諸牢人衆三頭縄無理之介五味与三兵衛飯尾
弥四右衛門同ク大頭ノ武田兵庫殿共ニ篭ル也カヤウノ
事アル也

附リ

前備頭人ハ身代年数固以の心持もあるへく或ハ
假し将若此目にのそミて半
前備トイヘハ旗本組ニテノ事軽キカ如シトイヘトモ

旗本ニテ戦ヲ初ムルノ先ナレハ又重キ役先手ノ
備頭ニモ準ズルホドノ役アルベシ然レ共甲列流
必ズト定役トハセサルシ元亀年中ノ備ナラシ
ニハ上列先方譜代ニ準スル安中九近百本騎ノ侍
大将ノ前備頭トス是ヨリ前駿河發向ノ節ハ譜代ノ
侍大将小山田備中七十騎ニテ前備頭トシ駿列蒲原城下
ヲ押通ルニ城主北條新三郎
ルヲ備中喰留テ敵ヲ城ニ
城ヲ衆取新三郎ハ討死シ是等前備頭ノ働キナリ
備中元亀ノ頃ハ右服備ノ頭タリ然レハ様子ニヨリ
前備頭ハ當座役タリ或ハ前備頭一手其外前ニ玄所
ノ品々ノ前備組合ノ衆右七手此頭武田兵庫殿ト
アツテ畢竟惣前備ノ警固頭ニテ大将代リノ用ア
又左七手此頭武田甲斐守トテ有テ畢竟床机代リノ
用タリ此等ノ衆ハ皆前備ニ組合テ旗本組トシテ或
ハ其場狹クハ皆旗本ノ前ニ備ヘ其場廣クハ前ヨリ
廣ゝト左右エ近ニ備フベキ心合戦ノ機ヲ取テ勝負
ヲ始ムルハ前備頭ノ心ニアリ惣警固ハ親類ヲ用ルハ
行列等ノトキ大軍ニテ押ニハ前備ノ分ハ一日モ半日
モ旗本ヨリ先ニ押等ノトキ或ハ陣取ヲ敷トキモ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

前備ハカリ離レテ一陣取ニ構ル等ノトキハ警固頭入支
ル如此入組タル支アルニ依テ旗本ノ武者奉行ハカリニテ
下知調カタキニヨリ惣武者奉行ト号シ信州先方小身
大剛ノ武士ヲ十人内外定メテ乗廻シ下知ヲサスル陣取
備立等ノトキハ前備ノ一之先ノ所ニアリト云一之先ト
云ハ頭ノ支シ戦法ハ前備頭ヨリ出スナレハ其下知ヲ受
テ前備ノ諸手ヲ指揮スルニ依テ如此シ是ヲ或浮勢
武者奉行トモ云トアリ委ク惣武者奉行ノ支ハ別ニ論之
甲列流惣して前後によする類多き事
惣テ武家ニヨル者戦場エ出テ手ニ逢支ヲ恍ク戦場
ニテ手ニ不ル逢ニ決定スル者ハ軍勢トハ云カタシ依之カ
末書下巻下五ノ図断ニ前備ノ内武田甲斐守ノ備ハ
人数少キユヘカヨセテ書タルハ勘定奉行ノ青沼助兵衛
同心足軽共ニ又猿楽同朋御ソシリ御馬ノ血取ノ
御細工衆或臺所頭等ニ到ル迄非番ノ者ハ甲斐守
ニ随ツテノ手ヲ塞キ働キヲナスノ心持アリ當番ハ夫々
ノ勤ル所ヲ守ル依テ之ニ一巳ノ軽キ者ヲモ武家ニアルノ
證是し
惣して前後の事ハ公惣軍の多少に依りて違あへし
余に他家といへとも是に準するの法ハ必

右ニ云所ハ信玄公五六箇國ノ大軍ノトキノ全キ法ニ武田家ニテモ初メ小勢ノ間ハ先手ノ侍大将代々前備タリ一ヲ以テイヘハ信州戸石合戦ノトキ戸石ノ城ノ攻衆ニ先手ヲ向ヱ敵ノ村上義清ノ戸石後詰ニ出ラレシタメノ押勢ハ其利備前ニ横田備中ヲ添テ備ヲ立其次ニ旗本ノ前備ハ小山田古備中ナリ是等ノ類ヒ多シ又他家ヲイヘハ神君ノ長湫合戦ニ御先手三好秀次ノ備ヲ追行キ堀秀政ノキニテ追返サレタルヲ井伊直政御前備ニテ又守返シ御勝利トナルカ如キ此類アル哉ト近クハ賀府ニテモ大坂冬ノ御陣ニ御先手四組ノ外御近陣組トテ横山大膳ニ御馬廻滝與右衛門神戸蔵人ニ組ヲ添シ其外横山式部モ指添タリ是前備頭ノ心持タリ扨御馬廻六組ハ其次ニ備ヱテ御旗本ノ前ニアリ然レハ前備トイヘモノニ同ク大坂甚陣ニハ御先手六頭ノ内四頭ハ道ヨリ左ノ方ニ二段ニ備ヲ立ル二頭ハ道ヨリ右ノ方ニ一段ニ少シ左ヨリ入テ立ル御旗本ハ道ヨリ左ニ備ヲルル御馬廻十二組ハ道ヨリ右ニ御旗本ト對ヒテ備フトシ此トキハ前備ナリ

御馬廻ハ右脇備ト云者ニ然シ而御先手四頭ハ
二段ニ立ルニテ一段ハ前備ノ心持ニ遍スル所カ
是左脇備ノナキハ左ノ方ハ沼ニテ堅固ノ地ユヘ
不入トシ冬陣ニ左右共ニ脇備ナキモ地形ニヨシ
支アルベシ備ノ實ハ地形ニ依テ、立所ナレハ畢竟ハ
前備ト脇備ハ遍ズルノ心持アリ然レハ賀府ニテ
ノ御馬廻ハ大坂陣ノ前例ヲ以テ見レハ前脇備ノ
御人數ニテ一組一隊ヲ持トキハ其組頭ハ侍大將ノ
格タル支必然シ而前備頭或ハ脇備頭トカノ
職ハ右ニ如ク又違フヘキニ「論」之ニ依テ畧之
可ナラン歟委クハ組頭ノ所ニ於テ考ル大軍五萬或
ハ十萬ノ人數ノトキハ二ツ三ツ四ツニモ分テ支々ノ
大將ヲ添ルニ至テハ慶長五年関原合戦ノ前東海道
筋ヲハ神君登ラセラレ中山道筋ヲハ秀忠公
登リ玉ヒ野州小山ノ奥筋ノ御歷(シヅヘ)ハ秀康御殘リ
玉フカ如シトイヘ尼未タ支程ニモ無之程ノトキハ
必ス前備タルヘキカ是父ヨリ跡ニ不居ハ礼ナリ

又先手ニ加ルトゾ云モ其甚シキト信州河中嶋合戦
ニハ信玄公ノ嫡子太郎義信ハ右ノ脇備ニテ旗本ヨリ
三町ホド進ミテ備ラレタルカ又北條氏康ノ現在
ノ節氏政ハ必ズ前備タリ武州
モ氏政前備ニテ戦功アリトゾ又武田四郎勝頼公
ノ二之先ヲ勤メラレ甚タ戦功アリタルハ又別論ナル
ヘキカ勝頼ハ信玄公ノタメニ諏訪腹ノ庶子ニテ
嫡子ナルヘキ人ニ非ズ其兄義信逆心ノ以後嫡子ノ
如クナリ勝頼ノ子信勝ハ信玄公ノ家嫡タリ
信勝十六歳迄ノ陣代ヲ勝頼ニ任ズ爰ヲ以テ知
ベシ甚ヨリノ家嫡ニアラサル哉ヲ此故ニ如此又東海道筋ノ
警固頭或ハ勝頼ノ武功ニヘシ故ニ考ル所諸家多クハ前
備ニアリ

第七

一脇備の事

旗本ノ左右ニ備テ敵横サニ来ンカノ變ヲ防ク等ノ哉ハ
左右ノ勝手ニモヨル哉ト信州海野平合戦ノトキ
武田方ノ備ハ山手ヲ右ニウケテ平ニ備ヲ敷長尾
方ハ山ヲ左ニウケテ武田方ヨリ吹シ高キ平ニ
備エシカモ先手ニ次テ景虎公ノ旗本ヲ備エテ

武田ノ旗本ヱ懸シノ勢ヒアルヲ山本勘介案ジテ立テ
直ス備ニ右ノ方ハ山手ヱヘ脇備無之飯富兵部一手
惣ノ先手ヨリ五町バカリ隔テ進ンテ長尾方ノ備ヨリ
一段高キ平ニ備ヱ敵ヲミヲロスノ勢ヒアリ尤脇ハ
馬場民部ヲ初メ六千ヲ雁行ニ備ヱテ景虎公ノ
平ノ下ノ方ヨリ廻テ晴信公ノ旗本ノ尤リヲ討ント
スルヲ止ルノ勢ヒヲ示ス如此変アリ或ハ前備
旗本敵ト戦フトキハ其場ト敵ノ変化ニ依テ敵ノ跡
ヲ遮リ或ハ敵ノ備ヱ横鑓ヲ入崩スノ働キ有ヘシ故ニ
脇備ト成テ戦ヲナス変ハ前備旗本ノ後シ信州
犬門峠合戦ニ先手ノ旦利板垣飯富三頭三度ノ合戦
四度目ハ晴信公旗本ヲ以テ懸ラルヽ右脇備原加賀守
敵ヱ横入シヲナシ勝利此トキモ尤ハ諏訪ノ湖水ニテ
尤脇備ト成テ戦ヲナス変ハ前備旗本ノ後シ又信州上田原合戦ニ村上義清ノ武田
ノ先手板垣信形討死ノ勢ヒニ乗テ無二ニ晴信公ノ旗本
ヱ懸テ三町ホド追立ラルヽ所ニ左脇備ノ馬場内藤
義清ノ備横入ヲナシ右脇備ノ諸角真田浅利三頭
義清ノ跡ヲ遮キル其節義清落馬有テ戦ヒ屓テ終ニ
山ヱカヽツテ退ル如此ノ働キ有変シ又大軍ニ到テハ
右尤脇共ニ脇備ノ頭ノ心持アリ味方ケ原合戦ノ節

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

等右脇ノ頭小山田備中先脇ノ頭原隼人佐也
信玄公モ小軍ノ節ハ前ニ云如ク旗本ニテ手ヲ砕(クダ)
ク支毎戦ナルニヨリ脇備ニ老功ヲ用ラル、支前ニ
云ガ如シ或ハ大軍全キ法ヲ云トキハ味方ヶ原合戦ニハ
先手一二ト米倉一手以上十五手ハ手ニ合前備ノ
以下ハ見物ノ如シ依之勝利ノ後荒手ノ脇備ヲ先ヲ繰(クリ)
後備ヲ先右ヲ繰テ戦労シメル先手ヲ跡ヲ立(タテ)方向ノ陣法
全ク(ママ)ナストシ若ハ脇備ノ将先手ト前後ノ戦功ヲ争ヒ
早ク進ニテ戦フトキハ脇備ノ詮(セン)ナシ増テ自然ニ先手ノ
利ヲ失テ敗走スルノ節荒手ノ脇備秀(ヒイ)テメル働ナクハ其
不覚云ヘキ様ナシ弱臆ノ断リ立難シ其宜キヲナス支ハ
前ニ云カ如シ又様子ニヨリ浮勢ノ用ニ替リ城ヲ守リ
加勢ニ行等アリ或ハ常ニ其領分ニアルノ先方衆等ハ
其境目ヲ働クノトキハ先手ノ組相備トシテ出ルナリ
南方江働クトキハ北方ノ先方衆ハ脇後備ニ入カ如シ
又未書下巻下七ニ一二之先手ハ敵ニ向フノ正兵タリ脇
後備浮勢小荷駄奉行備ノ四等ヨリ敵ノ左右ヲ
懸テ撃ノ奇兵トナル支ヲ委ク出ス更ニ知ヘシ其勝敗ニ付テ其
心ヲ定ムヘシ甲列流ニ云所右ノ如シ
附リ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

他家といへども脇後の心おこたるべからず
孔子

甲州流ノ心ヲ以テ知ベシ當時治世ニシテ戰國遠ク
中花ノ軍書ヲ見誤テ諸葛武侯魚腹江ニテ
石ヲ畳テ八陣ノ圖説ヲ不」委セシテ旗本ヲ中ニシテ
四方等分備ヲ立ルト見ルハ脇備モ又先手ノ如ク
思ノ誤アリ必左ニハアラズ更ニ知ベシ是ハ黄帝ノ
握機ニ依テ孫武ガ常蛇ノ首尾李靖ガ説ニ
迷ヲ解テ甲州流七段ノ備三才ノ備トス明
カナル事ハ畧之然ルニ近代他家ノ戰法トイヘ共
必ス脇備アリ姉川合戰ニ神君ノ二ノ見ノタメニ稲葉伊豫
ヲ定メラルルニ信長公ノ十三段ノ御備淺井長政ノタメニ敗スル神君ハ
亦朝倉ノ人數ニ依勝ヲニヨリテ見不入依テ稲葉氏兼テノ定メニ翻シテ淺井氏
横ニ懸テ十三段ノ備モ守返シ信長公御勝利是脇備心持ニ自ヅカラ叶フ
其外アリトイヘ共甲州流ホドニハ不委シ殊ニ賀府ノ如キハ大坂両御陣ノ格ヲ
以テ見ルニハ御馬廻必ス前備脇備ノ用アリ是武田家ニテノ諸軍人組三手モ前備
ノ内ナルガ如シ然ルニ當時ニ見テ賀府御馬廻十二組ハ前ニ四組右脇ニ四組左脇ニ
四組代々勤ムルトヲ定法ナルベキ者カ是大坂冬陣ニ御馬廻不殘前備ニテ其頭
横山大膳ノリ冬陣ノ地形脇備ヲ殊ニ城ヲ圍ムバカリナルニハカ又夏陣ハ城ヨリ
出テ防戰アルニヘ脇備入ベキナルニハカ御馬廻不殘右脇備ノリ九リハ沼ニテ脇

備不入地形ニテ前備ハ先手ノ内ニテノ其心持アリタリ爰ヲ以テ定法ヲ立ルト云トキハ前右左ニ四組宛分ルト云ベキ者カ扨前備頭ノ重キ事ハ其處ニ述ル也脇備頭ノ事ハ甲州流ニモ其心持バカリ也他家ニ必ズトハ無之然レ𪜈賀府ニテ大坂冬夏御陣ノトキ御馬廻十二組ノ惣頭ニ大音主馬多賀鴎庵ヲ御付ラルヘキトアル所ニ御馬廻頭中ノ云ハ大音ハ御前代御取立ノ人ナル故其下知ヲ受ベシ多賀ハ冬ノ陣過夏陣トノ間タニ召出サレタル人ナレハ新参ニヘ下知ヲ受難シト断ルニヨリ其事止タリト也是脇備頭ノ心持必然ツタル所カ大坂夏陣ニハ甚シキ事不見エヘ脇備頭ニモ不及シテノ事足ル所カ但又右ノ断ヲ申ニ付頭無之テハ前備ニハ御馬廻バカリノミテハ危キニヨリ不残脇備ニ立テ也タルカ其深意ヲ察スベシ然レ𪜈前段ニ云通リ

事重キ戦法ニ至テハ脇備ノ働キ重キ也其トキハ必ズ弓鑓功者ノ脇備頭有テ戦勝ノ機ヲ取テナスヘキ者カヽタトヘ脇備頭ナクテモ脇備トナルノ將ハ前ニ云ノ心持ヲ知ベキ事也

前備脇備ハ旗本組たりとも前後或ハ行列陣取も定法ハ人数多少振合の定法と知へき事

前備ハ旗本ヨリノ先ニ戦ヲ初ムル其次旗本也旗本ノ戦ヲ助クルハ右左ノ脇備也然レ共合戦終リ勝関ヲ取行フトキニ先手ヲ跡ニクリ脇備ヲ先エ備ルト云

ノ定法ヲ見レハ又前備ハ必ス旗本ニ付テ不」離モノニ
扱右戦法ヲ以テ備ノ序次ヲ定メ備ヲ以テ行列トス
故ニ行列ハ前備頭前備衆御旗本右脇備衆左
脇備衆ト次第ニ押シ其日ノ當番ニ依テ列ヲ定ムヘシ又陣取
ハ前備ヲ一陣取頭共ニシ御旗本一陣取右脇一陣取
左脇一陣取ニスル支シ先手ノ如キハ一組々々ヲ一陣
取ニスルニ然ルニ若(モシ)御旗本ヲ大陣取ノ法ニ
スル支アレハ前備頭ハ別陣ニシテ前備衆ヲ
旗本ノ陣取ノ内ニ小屋掛ニスル支モアル支シ此法ニ
見ルトキハ賀府ノ御馬廻ノ如キハ又ト上脇備ヲ勤ルトキ
モ大陣取ナラハ旗本ト一陣取ニスルモアルヘキシ更ニ
知ヘシ陣取ノ度量アル支ヲ或ハ又右脇備多ク
左脇備ハ少スル等ノ支ハ定法ニテ右ヲ量リ左ヲ
輕キノ釣合一二ノ手ノ多少ヲ釣合ノ如クシ左右等分
トスルモ又定法シ若(モシ)變ニ及ブトキハ一方ヲ欠支モ
アリト知ヘシ畢竟ハ敵合地形或ハ味方人数ノ多少
ヨリ支ニテ脇備ナキ支モアルヘシ故ニ前脇備ハ次ニ
ノ違ニタル支ヲ云シ

第八

一後備の事

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

後備ハ全ク握勝ノ根本此役ニ定ムル時方先手旗本
組等チヲ砕テ戦ニ勝負ヲ争フトキハ不及云ヘトモ勝
軍ニ極ムル迄猶其変ノ到ル支心元ナキニヨリ其働ヲ不思
少シモ不働後道ノ勝ヲ守リ全ク備ルヲ以テ本意トスルコト
末書所々ニ働ク衆ナキ者ト存ズベキノ戒メ或ハ見物ノ
如キ心得等ヲ出ス甲州韮崎合戦ニ先手四度ノ戦ニ
晴信公四度ナガラ旗本ヲ以テ二ノ見ヲ入テ勝利如此ノ
旗本危キ働トイヘ迄後備ノ今井伊勢日向大和見
物ノ如ク小高キ所ニ備ヲ立テ不働ヲ是」其人数ノ不働依テ
旗本ニテチヲ砕ケ迄鋭気不屈握勝ノ勢ニアリトハ是」

或ハ信州戸石合戦ニ先手ノ耳利横田討死左キニ後備
ノ諸角豊後ト手ノ内ヲ分テ山本勘介ガ下知ヲ以敵ノ後ヲ
廻リ敵ヲ南ニ向テ前備ノ小山田懸ヲ勝利トナル此トキモ
諸角人数廻リテ懸ルト見セテ不懸戦ヲナサヽルトヽシ是
等ハ皆末書下巻下六ニ後備ハ陽ニシテ陰ニ玄習ニテ
小軍ノトリ備ノ準拠タリ又味方勝テ敵近辺ニ不見トモ
此備ニ於テハ法ヲ乱ス支ナク備ヲ堅フシテ戦ヲ持ヘ是至極
高変ノ終リニ三軍ノ頼ム所後軍正シキトキハ敵無尽ノ変ヲナス
尼勝ヲ不失危キ支ナシ遠列味方ヲ原合戦ニ勝テ服後備ヲ
先ヲクリテ立其跡ニテ勝関ヲ取行ヒ夜中モ篝ヲ焼テ守ル

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

濱松衆夜討ヲ心懸シカ尼不叶ト云
如此勝ヲ不失ヲ本意ト云依之大軍ノ後備ノ下ル所ハ陰ニ
テ陰ニトテ小軍ト違ヒトリ所ヲ猶重シテ懸ルト見スル
サヲ心ニ不置カ如シ此趣未書下巻下ハニ出セリ又信列河中嶋
合戦ニ謙信公ノトリ備其糟近江守善光寺ニテ日帯留シテ
越後敗卒ヲ集メテ静ニ引取ルカ如キ未代ノトリ備ノ準
拠タルヘキ
附リ
後備ノ頭同後侮元人ヲ大軍小軍ノ名別甲列流
ノ外他家ヲいへり準拠ノ書

其将勤ル所ハ甚シク智勇武功ヲ顕シ施スノ業ハナシ
トイヘ尼勝合戦ニ自功ヲ思ヒ員合戦ニ其心臆スルトキハ此備
ノ詮ナシ故ニ勝敗ニツキ其剛臆ヲ忘シ其異心聊カナリ常
人ノ勤メガタキ位ヲ得ル所ヲ以テ依テ功者ニ非スハ任
ジガタキ役シ惣シテ後隊ハ本大将ノ後ニ備エテ後道
ヲ守ルノ将次シモ其心疑アルトキハ前後ニ敵ヲ受ルノ恐アリ
故ニ大将ノ一家衆ヲ以テ後備トス是一族ハ自然ニ其親ニ深ク
存亡一家ヲ不通シテ敵モ免ス支ナケレハ其疑自ツカラニ
ナシ且自餘ノ侍大将ハ忠勤ニ業ヲ励サン支ヲ思ヒ一族ハ必スト
功ヲ貪ル支次シ亦其威モ重クシテ不軽ノ利アリ此ヲ以テ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

信玄公大軍ニ成玉ヒテハ舎弟ノ道遙軒信連ヲ以テ其頭ト
シテ多クハ赤子甥聟等ノ親族ヲ後備トナシ玉フ或ハ
常ニ後備ニ定ル将モ戦日ニ及シテ一方ノ警固頭ト成テ働
キ或ハ二之先ト成ル支モ時ニヨリテノ有之功ヲ遂ル支アル様ニ
ナス支ハ本大将ノ御心ニアリ 神君大坂陣ノ節等モ
兵衛様常陸様等御後備メリ近クハ賀府ニテモ大坂両陣
共ニ前田修理様御後備ニテ前田家ノ氏族其組メリトゾ々
其以後ニ至テ光高公御代ニハ前田三左衛門様御後備
ノ御心當ニ御頼ノ御内意仰含メラレ置レメリトシ依之
前田家ノ衆多ノ其組メリ後備ト定ニリテモ戦旨ニ至テ
働キアル支ハ前ニ云ガ如シ扨小勢ノトキノ後備ハ家老ノ
内ヲ一手カ二手後備トテ賢ク
晴信公若キトキ如此平澤合戦ニハ典厩信繁塩尻合戦ニハ
日向大和ヲ初メ一家衆或譜代衆共ニ六七頭上田原合戦ハ
原加賀守後備メル如ク毎度代リメリ是寡戦ニシテ
旗本ヲ以テ手ヲ砕シトナレハ功者ノ侍大将ヲ以後備
トスルニ當時トテモ家ニヨリ備前岡山ノ池田家等
家老四家ヲ先手中備前備ノ此次旗本後備トシ
城代ト繰々ニ勤ル様ニ定メアリトゾ傳フ是勝入以来
ノ家格メルベシ甲列流トテモ趣キ不違シ或ハ又侍大将

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

二三頭敵方ヱ懸テ働キヲナストキハ一二三ヲ鬮取ヲ以テ
定ムル事モアリ大將ノ家風軍法正シカラザレハ毎度詮
ナキ功ヲ爭テ戰勝ノ障ト成事多キ也惣シテ大將ノ
命ヲ以テ後備ニ定メラルヽニ其戰功ノ寡キヲ以テ辭ス
ベカラズ然レ共此ノ間上下取捨アル事ハ前ニ云ノ趣ヲ得テ
考ヱ知ベキ也

後備に一家をもおさまり他をも観る
半

信玄公大軍ノトキ道遙軒ヲ後備頭トシ其餘一門衆
ヲ以テスルニ末書下巻下五ノ上方發向ノナラシニ後備ニ

信州先方相木市兵衛ヲ加ヘテ書タリ是山縣カ聟
ニテ親シミアリ或ハ一家衆ハカリモイカヽナル故ヱ且ツ目明
ノタメニ加ヘラレタルノ心ト云　三品龍韜品ノ備ニモ
後備一家衆ノ内ヱ信州先方保科彈正ヲ加テ書タル
同シ心也近クハ賀府ニテモ前田家不殘一組ノ内ヱ
葛巻隼人ヲ組合セラレタル事モアリ其心皆同シ
味ヒナルヘシ其加ル人ハ人柄ヲ撰マルヽナルヘシ

敵地へ働入引揚る時殿も後或ハ友軍の附扣軍
等皆後軍の意なる半

毎度殿リ備ハアル事也必ズ先手ノ大將ノ内武功ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

将ナス所跡ヨリ敵ノ追トキハ是ヲ蹈(フミ)シツメテ難ナク
引取支ヘ古戦其例多シ是ハ後軍ト云者ニテ後備
ノトヾル處ヲナストヽヨリハ次シ無趣キ違フ所ヘ先手ノ将ノ
ナス働キ戦法ニアリ更ニ支跡ニ依テ知ベシ或ハ信玄公ニ
増合戦ノトキ馬場浅利勝頼ノ三手ヲ敵ヲ會釈勢ト
定メラレハ殿リ後軍ノ用ノ次シカハリ名ヲ者ヘ皆先手
ノ将トシテ武功厚キノ功者中(カン)ニシテ勝頼ハ警固ノ心ヤリ
如此ノ品後軍ヲ司ルノ又重キ支ナリ合戦初メト違ヒ
引取トキ追来ル敵ヲ防キ戦勝シトセバ人數多クテモ
叶ヒ難ク殊外六ケシキ支共シ戦法ニ依テ更ニ是ヲ知ベシ

或ハ北條氏康公ノ武列河越ノ夜軍ノトキ多目(メメ)周防
三百バカリニテ身構ノ如ク扣エテ備夜軍終リ引取ルヽ
ノトキ氏康公ヲ押包ミ守護シテ城中エ入ル是則ト
リ備シ変ニ到テ如此ナル支ハ皆大剛ノ侍大将ノ
業ニテ一様ニ不限萬変到テ不泥(とヾこほら)ノ位タリ

第九

一小荷法奉行侍の事

惣シテ戦場ニテ小荷駄雑人ヲ備ノ内ニ雑交(サッコウ)シテ
ハ其法亂ルヽニヨリ一所ニ集メテ跡ニ備エ行列ノ時
モ跡ニ押テ敵地ニテ我荷物ヲ奪ニ取ントスルヲ守護

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

スルノ備ヒ着陣スルトキハ早ク其手々々ヲ配當シテ
又打立トキハ集ムル其配合ヲナスヒ常ハ其事軽キ故
侍大将早世ノ息幼少ニシテ其人数アルヲ功者ノ同心
被官ヲ陣代トシテ勤ムル武田家ニテ其利九衛門ノ過シテ
死後息藤藏幼少ノ内其後浅利式部討死ノ後
息三郎四郎幼少ノ内ニテハ小荷駄奉行備トアリ何モ
百騎ニ及フ備ヒ然ヒ共其配合バカリナレハ百騎ノ備ハ
過ムルナルヘシ結要本ニ三十騎トアル所モアリ又三増合
戦ノトキ帰路ノ先ニハ津久井敵城アリ跡ヨリハ敵追
来ルヨリ小荷駄ヲ先ヘ遣シ其日ノ奉行備トシテ先手

功者ノ侍大将内藤修理勤メテ津久井ノ城下ヲ道ヲ
作テ静ニ小荷駄ヲ通ス等ノ事アリ是ハ珎敷(メツラシキ)事
ニテ只ニ小荷駄ヲ扱フハ軽キ内此備ハ後備ニ近フシテ
後軍ヲ持ノ利等ハ第一ナレ共後備ニ合テハ軽キヨリ
或ハ遊軍ノ用ヲ兼テ奇兵ニ用ル支味方ヶ原合戦
其利衆ノ陣代某倉内後守右ノ先ヘ出テ山縣ニ
向フ敵ノ横ヲ突ノ働等アリ是士ノ勤ル所ヲ捨ガルノ
味ヒアリ皆是甲州流ニナシ奉ル所ヒ
附リ
大軍小勢ニテの遠矛に他家此役有毎の

武田家ニ於テモ六七千ノ惣人數ノトキハ此波汰ナキモ
其トキハ後備ヨリ小荷駄ヲ支配シメルヘシ一萬餘
ノトキハ其利衆是ヲ勤ム三四萬ノトキハ淺利衆ト云手
ナク案スルニ庶書下巻下ハニ萬五千ニ小荷駄ヲ一隊トス
此格ニ見テヨキヨシ他家小荷駄奉行備ノ波汰ナシトイヘ
モ謙信公ノ関東發向ノ帰路小荷駄ヲ奪ニヨリテ
見レハ大軍ニ必スナクテ不叶事ヨシ近代関ケ原大坂等ノ
役ニ此品ナキハ治國同事ノ時方地多キニヨリナキ筈ヨシ
猶兵粮方ノ巻ニ委ク論ス之故畧之

第十

一遊軍ノ支但甲州流浮勢ト云并ニ奇兵差列ノ事

是ハ定リ支無シテ其ノ用一ニ非ス先ノ手ニノ手ニテ一段
前備旗本右脇左脇ニテ一段後備小荷駄奉行備テ
一段此三勝七段ノ備ノ外ニアル人數ヲ軍鑑ノ内ニ浮勢
ト一頭ト書タル所モアリ或ハ末書下巻下五備ノ圖ハ
浮勢十頭此内芦田下野ヲ頭トストアリ然レ共出陣ノ
砌ハ諸方ノ境目留守居等加勢ヲモ遣之或ハ
攻落シタル城ノ守ラスルハ味方ヶ原合戦ノ前遠州二俣ノ

城落テ芦田下野ヲ篭ラレタルカ如シ未書下巻下七ニ合戦ノ時分浮勢ヲ敵ノ左右ニ出ス或ハ敵後ニ廻リ或ハ敵ノ横ヲ撃(ウツ)其ノ業軽重定ル処ナシ故ニ前脇備後備又小荷駄奉行備ニテモ添テ此用ニナス処モアリ浮勢ノ備ル所ハ多キトキハ二ツニワケ旗本ノ後ロニ左右ニ備ヲ分ルホドナキトキハ左ノ方ハカリニ備ユ或ハ後備ノ後ロニ備ルコトアリ又キハ脇備ノ次タルベシ

中花ハ陣ノ圖(ヅ)ノ説(セツ)ニ正兵四十八手ハ六手宛ヲ一ツニ見テ六八四十八ト四方ト四維(イ)ニ備ユハ方等分ニテ内中軍アリ又廿四手ヲ遊(ユウ)兵(ヘイ)トシテ跡ノ左右ニ備ユテ敵ノ左右ヨリ出ス或ハ敵後ヨリ廻リ或ハ進メハ遊兵ニテ敵ノ左右ヲ撃テ是ヲ必勝ノ機トス若(モシ)又遊兵スクナキトキハ左ノ跡ニ備ヘテ懸ルトキ敵ノ右ヨリ横入(アシキケイ)ヲナス是古今和漢教戦ノ定法ト然(シカ)レ共握機経ノ心ハ外ニ遊兵ヲ不求メ正兵ノ内ヨリ奇兵ヲ出ス信玄公浮勢アリトイヘ共戦場ニ近ク連(ツレ)出ル処ナク多クハ城ニ篭押ニ置ニ不足ニテ猶前脇備ノ内ヨリ此浮勢ノ業ヲ助テ勤メシムル処多シ或ハ戦ヲ接ユル期ニ至テハ其変極リナク或ハ戸石合戦ニ諸角人数ヲ廻備ハ後備ヲ浮勢ニ用ユ或ハ三増合戦ニ山縣ヲ初メ九備山手ヲ

廻テ敵ニカヽルハ先衆ヲ浮勢ニ用ユ或ハ味方原合戦ニ
米倉ガ働ハ小荷駄奉行備ヲ浮勢ニ用ユ是皆正
兵ノ外ニ立ル遊軍遊兵トモ云者ニアラス正兵ノ内ヨリ出
ス所ノ奇兵トモ云者ニ業ハ浮勢ニシテ如此地境ヲ知テ
ナスハ兵法ヲ知ニアリ此所實躰ニシテ必ズト外浮勢
ヲ定メズトモ戦法ノ変化ニ依テモ出ルトイヘ(ド)信玄公
十萬ノ人數ナラシモ遊軍ノ積リアル支ヒ他家トモ
モ遊軍浮勢ノ格アル支ヒ近クハ賀府ニテ大坂ノ
冬御陣ニモ浮武者トテ四五頭御旗本ノ御跡ヘ
右ニ備フトヒ或ハ當時組外ノ如キモノニ大頭ヲ付
脇備等ノ列ニ有テ城ニ籠リ先手ヲ助ケナドスルノ
働キアラバ甲列武田家ノ在郷近習ニ大頭有テ前
脇備ニ加リ城ノ在番或ハ先手等ニ加ルノ類ヒニテ浮勢
ノ一方ニ近カルベシ故ニ遊兵奇兵ノ差別ヲ知ラ形
ト理トノ同異ヲ察知ヒ其ノ應ズル働ヲナスベシ

附リ

浮勢陣屋乃事

一甲列流ニ論ズル所ハ脇備後備ノ小屋ニ入交テ掛ル
浮勢ハカリヲ一陳取ニスレバ脇ヲ働キメルトキ其一
陣取欠ルニテアシキヒ前脇後備三等ノ内ニ浮勢ノ

用篭ル支必然ニ

第十一

一留守居の半分に大中小度量の半

甲列流ハ侍大将以下中小身ニテモ三分一ハ必ズ留守

ニ残スタトヘハ三百騎持ハ百騎ヲ残シテノ二百騎ヲ

連出ル定メ是ニテ先軍役ノ内六七分役ニテ出陣

トスルモノニ郡主等ノ留守モ如此タルヘシ小国ノ主ノ

出陣ノ考モ景虎公天文十六年信州エ勅テ働ク

トキ越後ノ領分ノ人数一萬ノ内老人病人幼少

人等ノ足手マトヒノ者ハ留守ニ三千残シ七千ヲ

出陣タリ大方三分一ニ近キニ數箇国ノ主モ其下ノ侍

大将等三分一ヲ残スハ定法ニテ其外隣境ノ壓(ヲサ)エ入

トキハ惣軍勢ノ半分モ出陣ニ召連ル支不叶支モ

アリ故ニ敵合ノ様子ニ依テ違アル支ニ一二ヲ以テイヘハ

信玄公味方ケ原合戦ノ節ハ大概六箇国ノ領分ニテ

一国八千ノ軍勢積ニテ四萬八千ナレ共北條家ト和談

ニテ結句加勢来リ飛騨越中筋ハ江間推名ニテ

堅ノ冬ニテ越後ノ押エ不入故ニ常ヨリ多ク三萬八千ノ

着到タリ或ハ神君ノ長湫合戦ノ時分ハ是モ

五箇国ノ御領分ニテ右ノ積ナレバ四萬ニ及フベキ人数

ナレ𪜈北條家ヲ御心元ナリ思召スルニヨリ
遠州駿州信州ノ多ノ御留守ヲ残サレ一萬七千
ニテ御出陣ト大国ノ主ハ如此ノ違アリ是真境ヲ
守リ若一方ヘ働クトキ隣国ヨリ境ヲ侵セバ出陣先
ヨリ殿テ其方ヘ向フ支晴信公信及松本筋ヘ働ク
トキ景虎公上杉ノ安危ヲ聞テ松本筋ヲ捨
テ上杉ヘ赴ルヽガ如キ支 信玄公等ハ毎度有之
信玄公モ末書下巻下ハニ云上方發向ノナラレニハ三分一
定式ノ留守居ノ残シ其餘十萬ノ人數丹ナラレニハ
四分ノ一二萬五千ノ道遙斬ニ添テ甲府ニ残シ若敵
境ヲ侵サバ道遙斬出テ防戦ノ格ナリ故ニ十箇国
共領スルノ主ハ又此心得シ爰ニ於テ知レス右ニ云
神君ノ長湫合戦ノトキハ此心持ナルヘキカ猶委クハ
更ニ知ベシ末書結要本ニアリ

附リ

留守居全きの極子このごとし事

凡テ大国小国ノ主四境ノ敵亦大小強弱ニヨリ其国
ノ廣狹風俗ニ依テ輕重アリ有支ヒ小国或ハ郡主等
ハ出軍ノ跡其居城ノ守リヲ全フス大国或ハ二三箇国四五
箇国ヲ持ツ大将ハ境目ヲ全ク守ル支末ニ論ズ然ルニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

其大概大将他国ヱ出動アルノ上
親叔子弟ヲ初メ城主ノ跡ヲ伺ヒテ居館ニ入テ其領分ヲ
奪フ亥其例多シ留守居ノ将守リ堅固ニシテ他人ヲ
不入シテ大将ノ帰陣ノ待或ハ大将出軍ヲ跡国中ニ
一揆起リテ居城ヲ奪ヒ逆心ヲ起シテ城ニ入替ルカ
如キノ事アレハ身近キ親類一族等ハ却テ気遣アリ
軽重其変更ニ事跡ニ依テ可知之然ルニ其城ノ守ルニ
近世城代城番等ノ差別アリ支居城ハ其領分ノ人
数ヲ以テ守ルベシ出軍ノ跡ハ城廣ク人数不足ナルベシ
其郭ヲ省キ城内ヲ狭クス其守兵甲器ヲ備ルニ
利害有亥ニ留守ノ将ハ可知之亦賀府ノ小幡宮丹次
城代タリシトキ城ノ破壊ヲ修シ支ヨリ前ニ篠原
出羽守城代タリシトキ金澤ノ外惣構ヲ築クガ如キ
ハ又別式ノ上智タリ亦戦国大将境目ノ防戦員ト
成テ居城ヲ頼テ帰リ来ラルヽノ時守城全キ亥希
シ一ライヘバ朝倉義景ノ刀根山ノ戦員テ一乗ケ谷ニ入
柴田勝家ノ柳瀬大敗ニ北ノ庄ヱ逃入ル時篭城セシ
カ如シ或ハ城主因ト成テ家臣其城ヲ守ルハ慶長五
年増田右衛門大坂ニ因テ居城和州郡山ニ於テ家老
ノ田中角介渡部勘兵衛両人ノ子簡遣ハ田中ハ譜代ニテ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

本城ニアリ渡部ハ新参ニテ二ノ丸ニアリ田中此時節ニ妻子足弱有テハイカヽト城外ヲ本城ニ遣新参ノ者ヲ渡部ハ身代有付田中ハ浪々ヨリ取テ渡ス之其本元ヲ尋ルハ奥村助右衛門尾ヲ荒子ノ館ヲ前田蔵人様ノ御判ヲ取テ利家公ヘ渡シ奉ルヨリ初ル支カ

右ニ云郡山鷹嶋ノ二城等ノ守兵ハ前ニ云定式ノ留守居ニハ非ス守兵ヲ多シ大法大将出軍ノ留守トナラハ其居城ヲ全ク守リ敵ニモアレ一揆ニモアレ大勢ニテ攻ル已外戦ヲ不好城際ノ防戦ニ利ヲ得テ城ヲ堅固ニ持ヲ極トス〳〵シ其用法出入動静ノ理ハ更ニ知〳〵シ城取ノ奥秘ニシテ一度聞ヒテ頻ニ其理ヲ徹シ其業ノ叶フ支シ又人質ヲ預リ守ル支不軽治世ニハ支ナシトイヘ已守国ノ大基ハ此役ニ極ル所ナレハ支猶可論之者乎

第十二

一軍役の定に依く倭点極め事

軍役ノ支ノ治世ノ今ニ見レハ紛然トシテ過不及知難キモノヽ本元ヲ尋レハ上古和漢共ニ農兵不相分節不庭ノ敵ヲ征伐スルニ催ス兵ノ度量世々ニ違アレハ費用兵粮ノ程アリ故上代ヲイヘハ中花周制イヘ〳〵ヒ其本田地ニ依テ人高ニ定規アリ軍勢ノ定メノ井田丘役ノ法アリ日本モ令義解ニ出ル所軍團ノ品等定制アリ和漢古今ノ隔テ士農大キニ分ル今世トイヘヒ敢テ不違支ハ是ヽ更ニ知ヘシ武負カ作スル軍役和漢古今通解ニ粗其的合ノ明ス所ナリ

然ルニ其度量ノ大数ノ以テイヘハ地方知行一萬石ナレハ軍勢必ス七八百人ハ有テ馬上ノ侍五十餘騎モアレハ是則一備ノ法全キヽ然ル共出陣ト有テハ留守三分一モ残スニヨリ連出ル所三十騎餘惣人高五百餘人タルヘシ此内ニモ軍ニ不向小荷駄人足等三分一モアレハ軍ニ向フ者ハ漸ク三百四五十人ニ不過此内ニ弓鉄炮長柄旗ノ諸器ヲ推ル者馬上ノ数ニ應シテ有支ヽ當時士農分レタル知行ニテ一萬石ナラハ三百四五十人ノ人高ナラテハ常ニアリカヽシ出陣ノ節漸ニ二百五六十人ニテ出ハ其多キ方ヽ此内馬上二三十騎

ニテ出陣タルベシ諸器準之此外百二十人農ヨリ
ノ助ケナクテハナリガタシ馬モ農ヨリノ助ケナリテハ
不叶シ此本意ヲ知テ大中小身知行高(モ)ノ収納ノ
多少ニテ違フベキノ定規ハ此所ニ盡シカタキ如此
其本ニ付テ論スルハ備ノ根本シ

附リ

軍役戦法の餘風を知て治世の考をなすべき
事

惣テ侍大将五十騎百騎ノ備定ノ支大本ハ軍書
ニ出其實ヲ考ルニ古ヘ乱世ノ法ヲ以テ今ノ治国ニ
競(クラ)フレハ財用ノ花實自然ト異シ各其持分ノ領地ニ
應シテ其下士ヲ扶持スル高多少別格シ戦国ハ唯軍
用ノ為下侍一騎モ多ク召連ンヿヲ要ストル故末書下
巻中ニ地方知行一萬貫(但貫積リ国々異同アリ甲信
ハ一萬貫ハ三万石ホトニアタル)
下巻中ニ云所ハ史ヨリ多ク積シ
知行町積リ石積リノ差別ハ更ニ知ヘシ)
書今世ノ風儀ヲ以テ見レハ其数甚タ多シテ侍大将ノ
自分ノ所用ニ残ル所纔カニシ當世ハ天下ノ城郡治ノ
以テイヘハ繁昌年々ニ長シ国郡ノ主不残其内證妻子
ヲ江戸ヘ引越隔年ニ参勤シテ上中下ノ屋敷ニ各家作
ヲナシ賓客饗應其禮容花美日々ニ増行粗人数見分

ヲ宣クシテ實ノ武用ハ表ヲ行ハ是寛永十一年ヨリ起ニ
成行テ其後公家二三世ノ變化言語ノ及所ニアラズ
且大国ノ城下一国一城ノ主ノ下モ皆此風ニカシテ其
制法花美過奢ノ衣食居ヨ成ルヲ以テ年々勤倹制
禁有テ事軽キヲ表ニ立ルガ如キニ似テ裏ノ實ハミナ
奢ノ長スル端ト成故ニ軍用ノ下士同シ領内ニテ其
父祖ノ代ニ雙フレハ其減スル支半ト成シ治世ニ生レ
出ル者ハ戦国ノ軍用段令聞ト雖モ心ニ不思用ノ
花奢皆分際ニ越ル支ヲ願テ常ニ慾支ヲ不知大中
小身皆然リ夫サヘアルヲ又大樹公ニ三世ノ變化ニ及テ
治世弥静カニ都鄙近年大事繁ク武具モ多ク焼失
シテ新メニ制スル支半ト其工人サヘ世ヲ改メ或ハ庫
蔵ニ積ム所ハ虫ノ巣ノ長シテ今也不庭ノ賊徒等
ヲ征スベキ支アリ𠮟其手ヲ空フスヘキノ節甚タ
恐ルベシ兵ハ国ノ守護タルハ士トシテ豈忘ルヘケンヤ
軍旅ハ火災ノ如クナラズニ度往損ヲ取直ス支不叶ル
依之知ベシ大身タル人ハ小身ヲ下知スベキノ任タレハ
一入心ヲ付テ戦国治国ノ度量アル支ヲ戦国以来
備ヲ全ク組合スルノ風俗ニ依テ與力同心ノ
備少キモアリ亦與力同心ノ士ヲ多クシテ自分ノ士ト

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

合セテ倩ヲ全フスルアリ是其二代同ニ至テ幼年或ハ闇弱（アンジャク）ナルトキハ輿力同心ヲ減シ或ハ取上テ自分知バカリヲ附與シテ備頭先手等ノ役ヲ替テ其器量ニ應シテ脇備小荷駄奉行備等ヲ勤メシムルハ畢竟侍大將ノ子タル者ニ志シヲ勵（ハゲ）マシ武用ヲ張シムヘキ教戒ニモ叶ヒ且軍役ノ實ニ叶フ被官同心多キトキハ組ヲ分テ被官ニハ自分ノ家老ヲ則チ頭トシテ扱（アツカ）ハシメ輿力同心ニハ亦内身代モ宜ノ品量アル士ヲ頭トシテ扱ハシメ猶騎兵多キトキハ侍大將ノ子カ弟カ甥カヲ以テ別隊ノ將トシテ先手ノ内ニテ又陰陽奇正ノ用ヲナシテ其ノ手ヲ不頼シテ勝ヲトル心得アリ侍ノ手組極ルトキハ其ニ應シテ弓鉄砲長柄旗ヲ加ヘ備ノ數ヲ定メテ先ヲ勤ムヘキ是甲列流ニ其軍役ノ定メ有テ上ニハ半役四分役三分役時ニ應シテノ差別アルベシ且組相備衆ノ多少ニ依テ諸道具諸役者ヲ定メテ其働ヲナスヘキニ其品委ノ武田備要抄ニモ出之或ハ其人其器具其国ニヨリ家風ニ依テ少シキ不同アリ戸戦要ノ利用不相替所ヲ知ヘキ支ハ則此十役之抄全部ニ依テ各其矩ヲ知テ定ムヘキニ侍大將タル人ハ必ス軍中ノ諸職役諸道具ノ事ヲスヘテ知テ我備ノ度量ニ依テ施ス支可シ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

第十三

一侍大将と成くハ行営備共ニ兵寡主客大小攻守ニ依
ク常変の式等ニ諸役者法士の勤ニ而ハ指更可
知之事

甲列流ニ依テ云トキハ一手行列ノ次第大備ノ行列
ノ次第是三ツアリ一ツニハ旗本行列一ツニハ先手一
組ノ行列ニ依テ知ベシ陣取ノ
ハ先手ノ相陣取旗本方両ノ陣取ノ捨ヲ以テス
或ハ魚鱗ノ陣取旗本或ハ大小山陣平陣ノ差別等
アル変ハ末書下巻下三ニ委シ或ハ備立ハ前ニモ云七段

三勝ノ理或ハ五十騎ヲ中分ニシテ大小ノ差別等ハ皆
末書下巻下五六七八ニ委シク出ス猶是ヲ以ヘハ大
軍小勢ノ違ニ主戦ノ急務客戦ノ畜勢ニ依テ違
ニ大合戦小迫合ニ違アリ或ハ形ハ小ニ依テ教立大ハ其
理ヲ以テ推テ知或ハ備行ノ間畳備ヲ以テシ或ハ常
法アリ地形敵合天気ニ依テノ変化アリ或
ハ大小ニ依テ諸役者ノ違ニ多少兼役差別或ハ諸
士ノ階級親疎ノ差別或ハ其各勤ル所ノ当然本元
等ノ釣合ヲ知盡スハ侍大将ノ本意ニ是ヲ知ル変ハ
甲陽軍鑑本末之書ヲ結要本ニアリ委クセントセハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

猶書ニ依テ知ベシ近ク知シトナラバ永負ガ作スル所
ノ足支ヲ抜或ハ武田備要抜甲陽軍鑑抜要抜ニ
依テ知ベシ或ハ近代他家ノ様子兵法ノ位ヲ論スル
トナラハ永負ガ論スル所ノ摂密要論ニテ知ベシ
或ハ和漢兵法ノ本源不二ノ論ヲ知シトナラハ武負カ
作スル孫子講註ニ其的ヲ挙ル或ハ田地ニ依テ軍ス
催スヲ知ベキハ武負ガ作スル軍役通解ニアリ或ハ
一時所伝ヲ論セバ事蹟ヲ以テ其位ヲ見ル支一流ノ
奥秘ニアリ治世ニ手ヲ按スルノ将士只二見ニ其支ヲ
快リ知ハ書ニアリ乱世ニ骨ヲ砕英勇ハ勤メテ混
心ニ其理ヲ困シテ覚ルハ業ニアリ雙ヘテ云トキハ業ハ
難ク書ハ易シ今世其跡ヲ
更ニ知ベシ治世ノ諸将放鷹狩猟飲食
欲ノミヲ以テハ軍戦ノ用足支カメキシ依テ之ニツ
学テ其法ヲ知リ勤メテ傷説ニ迷ハサルホドニ至ラ
バ實ニ徹スベキシ然ラバ行営備ノ法暗ニ其宜
キニ至ルベシ尤アリテモ戦国一支不通ノ剛勇ノ
将士ニハ云サル支難カルヘキ
附り
行列常変孔明の本

真一備行列ノ変委ノ古書ニ傳ル所ヲ以テ知ヘシ治世
都鄙往来ノ道筋ハ行粧目ニ立バカリニテ武家行列ノ次
第ハ未ニヲ急ニ敵ニ逢備ヲ立戦ヲナスノ法ヨリシテ長短諸
道具ニ前後ヲ定メタル利ヲモ不」知俄ニ天変大風甚雨サ
エモ山路ニ悩ミ河水ニ苦シテ利ヲ列ヲ乱シ遅滞ニ及ブ惣シテ
行軍ハ天変地利ノ難ニ逢トキハ早ク行カ早ク止ルヲ利トス然
ルニ戦国行未敵ノ出ベキヲモ不」知行ヲ以テ備ニ移シ備ヲ
以テ行トナスノ作法産備シ行列ハ體用動静シテ別利ニ非
ス是ニ依テ備置ノ習等起リ多勢ヲ少勢人数扱ニ騎歩ノ進
退能尋テ其古法ヲ知ベシ敵ト戦ニ及テ後ニ廻リ脇ニ出ルニ
常道而已ニシテ敵ニ勝変ナシ山洞巌石険隘ノ地ヲ経テ其
不意ニ出不」守ヲ攻テ利ヲ得其品古戦記録ヲ以テ可考之
然レハ侍大将人ニ勝レ戦功ヲ遂ント思フニハ近国自他ノ領
分山川海陸ノ地利ヲ不」知シテハ成難カルヘシ敵城ノ険易
ヲモ心懸テ可」知之如此ノ変アルヲ知テ治世ト云ヒ漫ニ
行列ノ心持ヲ失フヘカラス
陣取常変の心得并に陣場吉凶の事
陣取変先手旗本異同右傳最詳カニ其畨理等ハ
純熟シテ可」知之近代ノ用ヲ聞ニ敵国境遠キトキハ
夜々民家ニ旅宿ヲナス其法陣屋ノ諸役者道具配ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

法ヲ以テスヘシ無法ナルトキハ失火或ハ急変ニ取合ガタシ
敵近キトキハ野陣ヲナス其陣具食物等兼テ自国ヨリ
爲持行テ上下雨露ヲ凌キ飢寒ヲ防ノ用意テ心付
ナレバ変欠乏多シ敵国ニ入テハ陣具兵粮ハ皆奪取テ
薪蒭用水ニ至ル迄働ノ前ニ考ヘ定ル変等陣場奉行勤ル
ノ侍大将軍々遠慮スベシ自国ハ勿論ニ不及近国他国地利
案内ヲ能知スレテハ人ニ越タル功ヲ遂ル変成難シ故ニ繪圖
ヲ求メ其国々ヨリ来ル人貴賤僧俗貪人乞食ノ技藝
猿引蔀摺放下師傀儡師ノ類ニノ者共ニモ便リテ国々
ノ変ヲ聞ヘシ猶陣場奉行ノ本意ハ陣場奉行之
巻ニテ更ニ知ヘキ然トモ古今ノ治乱古戦代々将軍家
或ハ諸家興廃ノ大概ヲモ兼テ不知ハ問聞ベキ便モナシ
地利ハ萬ツノ軍功ノ業ヲ遂ルノ本ニシテ侍大将タル
人ハ第一ニ勤知ベキ変シ故ニ常々雁鳥野川狩等
ヲ以テ地形ノ変化懸待戦守ノ要ヲ知ベキノ用古人
ノ格言今更ニ不及然ルヲ放鷹漁猟ニ唯奥島ノ獲
物ノミニ心付テ山川険易浅深ノ利ヲモ不圖ハ武士ノ
所行ニ非ス其取捨ヲ察知スベキ故ニ其地ニ依テ

陣営ヲナスノ得失地理善悪ヲ知トキハ自ワカラニ
ヨキ支ヲシ
合戦乃備定常変化心得ノ本
合戦ノ節ノ備定ノ支ハ本大将ノ胸憶ヨリ出テ
ナス処ニシテ諸将ノ思慮ニ不任所トイエトモ強弱
利害勝敗ノ勢カハ侍大将ノ心ヨリ出テ変ナシ利ヲ
握ルヒ凡ソ戦ノ勝利ヲ変スルヨリ備定メ道具配等ハ
起リ備ヲ全フスル動静ノ用ハ則行宜営法ヒ多ク
書籍ニモ躰用別理ト成諸家ノ備定モ行備ヲ
分テ一致ナラス衆兵相連ルノ陣法モ其利無シテ唯
一概ノ應変而已シ是敵ト戦ニ及テ進退常ナラス地
ノ険易相替テ合戦ノ変化不同ナルカ故シ如此無法ニ
シテモ假令ハ名将ハ敵ノ過ヒル所ト我乗スル勢気ト
ヲ以テ其合戦終ニ勝利ヲ得ヒ武備詳カニシテ大敵ヲ
負ケ支限リナシ又甲陽ノ武田敵ト三十八年ノ戦畧ニ練詰タル法制ナレヒ平易ノ地
ニヒ段ノ備ヲ設ケテ勝利全キ支ハ遠別味方ノ原合戦
唯一度シ河中嶋合戦ハ平陸トイヘヒ武田方猛勝ノ
戦法ニ非ス其餘ノ數戦衆寡主客次守ノ変ニ依テ
戦畧小大前後ノ手段不等シ然ルニ其一勝ノ得失ノ身

ニ覚ヒ見聞ニ知テ戦畧必ス如此ト思フハ其了簡狹シ
故ニ武功ノ主将トイヘドモ其法ヲ後世ニ傳ヘ其利ヲ子
孫ニ遺ス支微少シ況ンヤ治世ノ将士戦陣ノ用ヲ
不」知地形ノ險易ヲ不」思手ヲ懐(フトコロ)ニシテノ八陣教法ノ
圖理ヲ見聞シテハ如此モノカト思ヒ或ハ敵ヲ偽リ
タブラカシテ勝支ノ十ニモノト思フ者ヲヤ甚タ
シキノ語リシ猶玄ニ近代ノ大合戦江州姉川合戦
濃州関ケ原合戦摂州難波五月七日ノ大戦ニ到ル迄
其戦法握勝ノ全キ御備定メトテ相残ルノ跡ナシ其
戦場ニ連リ出ル士卒ハ玄ニ不足諸将トイヘドモ其勝敗

トナル所以ヲ知者希ニシテ唯勇力ヲ盡スヲ而已ヲ
武儀ト思フ其術利ヲ知者少ナシ彼我去合スル
戦ノ利ニ依テ謀功術策モ入ル所シ此理ヲ不知ハ大将
ニ非ス先手ノ将トイヘドモ其戦畧ニ徹スル者ハ主ヲモ
諫ムヘシ衆ヲモ麾ヘシ故ニ侍大将ト成一隊ヲモ司
ル人ハ其心得軽カラズ戦国武功微妙ノ名将時世
ノ変易ヲ察シ彼我強弱ノ勢ヒニ乗シ相随諸将
ニ於テ其器トシテノ働カシメヲフニ及テ其魁ノ功ヲ遂ル
ノミニシテ大守ノ進戦守禦ノ間勝利ノ本旨ヲ知
者希ニシテ其智慮ヲ箭ノ理ニ不」中支ノミ多シ故ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

其戦功ノ厚薄侍大将ノ得ル所ヲ察シテ其業
ノヲナサシムルハ名将ノ至極シ下ニ立ノ諸将モ懸待
戦守ノ謀功ヲ兼テ知ル者ハ亦有難シ唯一事ノ変ヲ
能ナスニ至ル者ハ人身ノ眼耳手足ノ見聞持行ノ用ヲ
ナスニ時トシテ其重キ用ヲ違スルカ如シ然ハ戦ノ変
化大小攻守定マル変ナリ前軍退キ後軍進ミ
或ハ離散シ或ハ聚合ス彼我ノ顕ル、形ニ依テ奇ト成
正ト成ル戦法ハ是和漢古今不易ノ実利百戦其理
ニ違フ変ナシ爰ニ知ベシ庸将無制ノ士卒トイヘ𪜈
敵ノ一虚ニ向テ一術ヲ以テ勝利ヲ得ル変多キヲ以テ
唯我ハ如此ト思而已ニシテ名将有制ノ兵ニ向テハ裏切ヲ
求メ土手ヲ築キ柵木ヲ振テ勝ヲ求ル等ハ勝軍ノ
下策是スキズホ信玄公謙信公信州ニ於テ
十餘年ノ対陣ノ如キハ其利形更ニ平人ノ知難
キ所シ武士トシテ軍戦ヲ勤ル者其功業ノ浅深
ヲモ弁ヘ知ヘキ変シ軽ク不可思之故ニ備変ハ
其基合戦利ヲ先知テ地ニヨリテ敵ニヨリテ味方ノ
将ノツリ合ヲ用ヒ握勝ノ用ヲ計ツテ立設クルトキ
ハ其実シ教法ノ如キハ必スト用ニ難シトイヘ𪜈
教戦厚キトハ闘戦ノ利ヲ得ル変易ノ変化

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

自在タリ故ニ辨ズ之治世ノ將士ユルカセニ思フヘカ
ラサルカ

第十四

一侍大將城を守る事しるへき事并に戦国
の條風を知り治世といへとも手挑ともへき事

惣テ城ノ事ハ兵法ニ於テノ一事其習ヒ繁多ナル事
ハ爰ニハ畧ス之軍法之巻ニ云自国諸ノ城取ヲ能取
堅メト云ハ四境ヲ全フシテ他国エ働クニヨキト云或ハ備
ヲ能立設ケト云ハ武備諸ノ事欠カサルノ法ヲ云或ハ
陣取ヲ能取敷クト云ハ他国働入營法ヲ全クスル

ハ敵ニ変ヲハカラレズ此城備營ノ三ツハ戦陣三ツ
ノ備ニテノ是ハ急ニ調エガタシ常々練々ニ整フベキ
法ナレハ武家ニ於テノ大本甲州流ニ内ヲ治ムルトシテ
是ヲ武畧ト云フ其中ニ於テ城ハ形ヲ結ニテ
守リ或ハ敵攻バ出テ防戦ヲナス故ニ其地形ヲ
第一ニシテ且縄張ノ善悪ニテ出動入静或ハ普請
造作ノ早遲ヲ論スル事末書結要本其習ヒ多
ク出之畢竟其實ヲ得ルノ傳ハ有沢永貞カ傳
ニアリ更ニ知ヘシ必ス僞説ニ迷フベカラズ然ルニ近代
ノ諸國數戦ニ用ル所ノ城品々多ク治世ニ至テノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

兵法ヲ説者ノ異見區々ニシテ城ノ品ヲ分テ論ズル
所多シ地形ニ依テ云トキハ繁昌ノ地守成ノ地
トス城形ニ依テ云トキハ山城平城平山城ト云大小
ニ依テ云トキ國主之居城郡主之居城境目ノ城ト云
或ハ輕キ一ツノ用ヲ云トキハ取出城附城陣城ト云或ハ大
ナルヲ云トキハ天下之居城同屋敷構留守居ナトヽ云
又小細ニ論ヒテハ取出ニ主客ノ二ツヲ云陣城ニ山平
或ハ必ズノ城ニ不劣構ル事ヲ云或ハ附城ニモ向城對城
侍大將ノ付城トス或ハ迎城海守山関侍大將之居城
番手城ニ大小アリ市山中小屋城山小屋根小屋等或
ハ屋敷構大中小等挙テ數ヒ難シ畢竟本城ノ
大中小ヲ以テ度量ノ極トシ水ノ手有無ヲ知テ境目
ノ城ニ其習極リ就中城ノ數多キトテ味方ノ堅キ
ニ非ス古戦ヲ以テ知ベシ大合戦ニ勝テ後敵城多ク
陥(オチイル)支ヲ故ニ末書ニ境目ノ城ハ五ツチヾメテ三ツ三ツ
チヾメテ一ツニテモ堅ヲ要トス堅キトテ必ズ不出
ハ城ニアラズ出入ノ防戦アルハ城ニ殊ニ當時ハ鳴原
一揆ノ以後寛永十五年来一国一城ノ御掟(オキテ)トシテ
諸国ノ城多ク廢城トナリ国々古戦ノ形サヘ悉ク
破リ捨ルニ至ルニ依テ今テノ實城ハ年々花美ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

盡ス如此モノニ非ス戦国ハ五三日ニモ攻上城ヲナシ
ノ要害ヲ守ル者多シ故ニ侍大将タル者其守将ヲ
奉ツテノ心得大方ナラズ其軽重ヲ知テ其宜キニ
叶フテ本意トスベシ依之古今ノ事蹟ニ見テ治世ノ
諸将トイフトモ節宜ノ忠功ヲ心懸ベキ者乎

附り

我国侍大将居城をおもき事の事

数代其地ヲ領シ来ルノ知行所ニ小城攻上或ハ居館
屋敷等アルモノハ必ス敵ヲ守城ヲ全フセント云
ニモ非ス常々盗賊ヲ禦遣或ハ急難ヲ防ノ用タリ
其身上多少新舊アリ其地利山川險易アリ若大敵
働来ルトキハ近隣ノ堅城ニ集リ籠テ常居ノ城ヲハ
明ケ閑ノ支等アリ其節先手ヲ勤ル備頭アレハ其
組相備ト成テ其城下ニ集リ守禦ノ計謀ヲナシ
妻子人質ヲモ其城ニ集メ會集ノ約ヲ全フシ或ハ
古城多クハ山上ニ守城ノ要害ヲ築キ常ハ平地ニ
居舘ヲ築テ居住シ敵来リ攻ヘキニハ城ニ籠リ或ハ
敵來ルヘキ境目ニ堅城ヲ築キ近所ノ筋ヨリ
昏ルヽ々番手ヲ置テ守リメルノ跡等諸国ニ多シ記録
等ヲ以テ其事蹟ニ可知之是其ノ基農兵不相分

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

諸国散在ス大百姓ノ如キ者ニ次第ノ
ニ様子違ヒテ其内ニ独立シタル者ハ如右今世ハ大身ト
イヘ共領地ヲ離レテ府ニ集リ居ルノ風俗諸
国ニ多シ故ニ又大百姓或ハ有徳ノ町人等古ヱノ庄司
トなが如クニ独立ノ如クナス者多シ是ハ却テ田地ニ
付テ軍役ノ實ニ強シ田地ヲ離レタルハ軍役ノ實ニ
弱シ此等治世專務ニ考フベキ支シ或ハ又當世ト
イヘ共家ヨリ国ヨリ大小身地方ノ知行所ニ
アル者ハ戦国ノ餘風等シク軍役ニ全クシテ百姓或
ハ町人ニ兵粮財用ノ權ヲトラレズ此境ヒヲ知ヘキ者乎

侍大将番手城の事

番手城ノ本意ハ其城ヲ全ク守ラシムルタメニ東方
ノ将ヲ西方ヱ遣シ西方ノ将ヲ東方ヱ遣ス如キハ妻
子ヲ遠サケ守法ヲ堅カラシメン為シ上代ヲ以テ云
ハ令義解ニ出ル西國ニ異国襲来ヲ守ルノ防人ヲ
置支諸国ヨリ来テ守ルニ三年ニ一度宛交代スル
是番手シ近クハ諸国ニ番手アリ則其城主ヲ
シテ守将トスル支モアリ旗本足軽大将ヲ警固頭ト
ナス支モアリ守城ノ武功等ハ更ニ知ベシ此所ニ述
盡シ難シ侍大将タル者ハ其法ヲ習知ヘキシ甲陽ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

於テ城取全ク守法堅キ故信玄公ノ代ニハ敵ノ攻ル
ヌモ少ナシ其城ヲ守テ必ズ外ヨリノ助ケナクテハ勝利
ナシ殊ニ番手城等ハ敵攻ルトキハ早ク後攻ヲナシテ
是ヲ拂フ後詰ノ心ナクテ城ヲ構ユル事ハナキ儀ニ
依テ其後詰アル道程(ミチノリ)ヲ計リ日積ヲナシテ兵粮或ハ
失玉薬ノ度量アル事ニ然ルニ武田家モ代替リニ
成勝頼ノ代ニ至テ武威年々ニ衰(オトロ)エ敵ノ攻ルニ或ハ
甲府ヨ告断テ持キカセ難ク後詰モナキヨリ敵ニ
城ヲ渡シテ立退ク事諸我小泉遠州諏訪原之城ニテ
如此或ハ身ヲ捨テ後詰ヲ不頼敵ノ中ヲ乗抜テ帰ルニハ
横田甚五郎高天神ノ城ヲ如此或ハ大将ノ敵ヲ
請テ城中ニ死スルハ仁科薩摩守小山田備中渡部
金太夫信州高遠ノ城ニテ如此是ハ備中父ノ故備中カ
信州海尾ノ城ヲ能守リ晴信公ノ後詰ヲ待テ運ヲ
開クノナラハシテ城ヲ不出シ或ハ大将ノ滅亡ヲ聞定
メテ城ヲ渡スハ依田右衛門駿州田中ノ城ニテ如此
是ハ皆甲州武田家亡(ホロ)ビノ筋ノ番手ノ城主共ノ
分野(アリサマ)ニ此外近代他家ノ諸将ノ城ニ籠テノ様子善
悪軽重ハ事蹟ニ依テ知ベシ柳ヶ瀬合戦ノ節江州
海山ノ取出ヲ一ツハ高山右近開テ退キタルニ一ツハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

中川瀬兵衛清秀ノ其取出ニ戦死タリ同時同所ヲ
守テサヘ人心ノ違フ所ヲ知ベシ其外ノ事跡城主守カ不
叶シテ落城スル者ハ其宜キヲ盡スノ上(ウヘ)ニ或ハ柴田勝家ノ
長光寺ノ城ニテ兵粮水ノ手盡テ後援ナキヲ敵ニ強ヲ
示シ(シメシ)弊(カメ)ヲ破テ死ヲ衆卒ニ
投テ帰スル是等ハ其宜キヲ盡ス
聞テ開退キ或ハ近辺ノ堅城エツホミ或ハ多勢ヲ
恐テ敢ニ降リ或ハ扱(アツカヒ)ニナシ或ハ城主死テ士卒ヲ助ケ
其様々ノ行跡(アリサマ)アリトイヘ(ドモ)江州宇佐(ウサ)山ノ城ニテ森
九衛門(ヒサヘモン)奇成(ヨシナリ)ノ遠ク働キ出テ討死シ或ハ駿州蒲原ノ
城ニテ北条新三郎遠ク働出テ討死スルガ如キハ守法ニ
非ス更ニ知ヘシ守法ノ全キアリ賀府ニテモイヘ能
州末森ノ城ニテ土肥伊豫ハ町口ヘ出テ戦死ヲナス
奥村助右衛門千秋主殿ハ城ヲ守テ後詰ヲ得運
ヲ開ク是奥村氏ノ心ニアリ物ヲ右ニ云如ク近代様々ノ
善悪アル是ナレハ一城ヲモ預ル者ハ其利害ヲ察シ心ヲ
定ムベシ故ニ善守ル者ハ不攻所ヲ守ルト云或ハ守テ必ス
堅キ者ハ其之所(コノ)ニ背(セ)ト云ノ位ニ至ラサレハ實ニ守成
全キ是ハ有ヘカラス亂世當然ノ守法ヲ云ニ地険
普請其縄張リ兵粮薪苅用水矢玉等ノ器械各具

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ノ全キ上ニモ士卒ノ氣一ナラザレハ城ヲ持チカヌル事難
シト云傳ル所也當時トイヘトモ常ニ二條大坂ノ両
城ハ大御番衆ノ番手也其上ニ御城代御城番
加番等ノ衆アリ駿府ハ御書院番衆ノ番手ニ是
モ城代城番等アリ其餘近世亡家ノ城ヲ請取ノ
大名衆其跡ニ主ナキ間ハ番手持ノ事多シ近クハ
飛州高山ノ城ヲ在番モ賀府ノ御馬廻一組宛ヲ
遣ハサレシ也是ハ不時ノ番手也常ニ賀州小松ノ
城番人持ノ歴々二頭ヲ一年代リニ番手ニ城代ノ人モ
定マル所ニテノ外ニ小松在住ノ諸士モ多シ如此ノ品當時モ

諸国ニ多キ也故ニ其將トシテ行ノ人ハ守法ノ當然ヲ
知ベシ時節ト所ト勢ヒトニ依テ宜キヲナス事キハ
其人ノ心上ニアリ

境目の城に侍大將居城或ハ番手城の遠
近の事并に中小身の郡主領主の城館も
是に類せるもの多き事

城ヲ預リ守ルト我居城トノ差別其守リヲナスニ
品々アリ侍大將四境各我常居ヲ守ル者ハ昔ヨリハ
平易ノ地ニ居館ヲ構エ相應ノ居宅ノ作リ内外
賓客交錯ノ禮義ヲモ分ニ隨テ盡シ居城ノ如キ

ハ自然ノ急難賊盗ヲ防ノ為ニ設ケ𠮟ル屋敷構ト
云是レ大敵来テ責ル心ヲ防キ守成全キノ用ニ非ス其タメ
トシテ近隣ノ山上険難ノ地ニ城ヲ築キ兵粮塩噌薪(エノ シノ スノ)菊
ヲ籠テ全守ノ用ヲ兼テナスヘトハ信州ノ村上義清
坂木ニ舘有テ上ノ山葛(カツラ)尾ニ城アリ賀州ノ富樫氏モ
舘村ニ屋敷有テ高(メコ)尾山ニ城アルカ如キ諸国ニヲヽシ
然ル ヲ天文永禄ノ頃ヨリ常居ノ舘ヲ其儘城トスル
ノ法出来テ平城ニ居堀其利ヲ盡ス今ノ城取ノ習
是レ國主トナルモ郡主ノ大キニナリ𠮟者ニ郡主領主ハ
地侍ノ大キニナリ𠮟者ニ故ニ其初メノ居屋敷ヨリ
次第ニ構ヲ廣クナシ𠮟者ニ依之國主郡主トイヘ(ド)モ
此法ニヨリテ山上ヲ居城ト定ムル仁(ジン)ハ其郭内狭ク
シテ城地ノ外近家作ヲ掛(カケ)作ニシテ常禮ヲ違スルハ
金森法印ノ飛(ヒ)州高山ノ本城等ノ如シ或ハ城主ハ
二三ノ丸ニ常居シテ本城ヲ守成ノ要トスル等ハ小
ヲ以テイヘハ因州鳥取ヲ初メ諸城ニ多キ事ニ
依之昔古中頃近代ノ相替ル利ヲ知ヘシ甲陽法ヲ
以テ云ニ甲府ノ御舘ハ則古法ニシテ信玄公御一生城
ナシ赤信州海津今ノ松城ノ城ノ如キハ其初メ清野
カ屋敷ニ城ハ山上ニ清野ノ古城ニテ河中嶋合戦ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

前ニ謙信公ノ陣城ニ用ヒラレタル所ニ然ルニ高坂弾正
移ルノ節清野屋敷ニ馬出ヲ築キ海津ヲ在城越後
ノ壓(ヲサエ)トアレ共越兵来テ攻ラルヘキノ利ナシ是ハ境目
ト云ナガラ居城ニ後年長沼ニ城ヲ築テ旗本足軽大将
ノ原與九衛門市川梅叶ヲ将トシテ高坂カ組相備ヲヨリ
代々八十騎宛番兵ヲ籠置テ信州犀川ノ上牧ノ嶋
ノ馬場美濃守下知ヲ守テ城ヲ持ノ定メハ是ニテ慥カ
ニ越後ヲ押ニ敵攻ルトキハ随分防ノ内ニ馬場ハ
水(ミツチ)内ノ橋ヲ渡テ五里餘ノ所ヲ後詰ヲナシ高坂ハ三
里内外ノ道ナレ共大河ニ橋ナキユヘ水不出トキハ是モ早ク
後詰ヲナス心ニテ甲府ヨリ出ル馬ハ遠キトテモ先(マヅ)其間
ヲ防ノ要タリ故ニ其主将ト成テ死生ヲ盡スノ
用意ニアリ此一ツヲ以テ其餘モ知ヘシ駿州江尻ノ
城ニ山縣三郎兵衛有テ遠州小山(ヲヤマ)ニ大熊ヲ備前ア
カ如ク甲州郡内ノ谷村(ヤムラ)ニ小山田兵衛尉有テ相州
深沢ニ駒井右京在番ノ如シ其城ヲ守リ其境ヲ
防ノ者大敵ヲ見テ全ク守ラズハ其不覚雪(スヽ)ク(ヘキ)ナシ
本大将ノ後詰亦期ヲ越(コサ)ザル変ハ古戦ニ名将ノ業
ヲ以テ見ベシ其時ニ至テ多クノ諸城守成防禦(バウギヨ)ノ軽
重アリ或ハ敵国ヲ働入攻落シタル敵城ニ其儘待大将

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ヲ篭置シ其境要塞ノ地ニ番兵ヲ置ルニ陣城取出ヲ
俄ニ築キ其地ニヨリテ一二三段幾ツモ取出ヲ並(ナラ)ヘ
築キ假(カリ)ノ要害善請(ヨシ)不(ズ)全(マタ)門櫓丈夫(ジヤウブ)ナラズ城内(ジヤウナイ)モ
家作ナク陣屋ノ如ク設クルバカリナルベシ駿列薩埵
山ノ對陣ノ中ニ同列久能ノ城ヲ築テ今福浄閑
ヲ篭(コメ)同国横尾(ヨコヲ)ノ城ニ定山左衛門ヲ篭テ其守法
定書等今世ニ殘ル其餘同列田中ノ城清水ノ城
遠列ニ侯ノ城小山ノ城等ニ番兵ヲ置ルヽノトキ
皆其廊々ノ守法ノ定メ有ヘシ尋子テモ知ベシ又
ハ時所位ヲ以テ案シテモ知ヌヘシ此外他家トイヘ

モ此品事跡ニ知ベシ其守法屏多キトキハ守ル
人數多ラズ城内狹キトキハ工食調ニ難シ故ニ
城内廣ク守ル屏狹キニ城取ノ秘傳有事ナリ
攻ル敵ノ虚實ヲ計リ城ヨリ出テモ防戰ヲナス
其防戰出入ニ又縄張ノ秘傳重々アリ校(カウ)定(テイ)結要本
ニ云郡主ノ居城ハ堅固ノ地ニ陰ノ城郭ヲ構(カマヘ)ヱタルヨシ
堅固ハ城廻リ十町廿町防戰堅固ヲ云山城ハ陰ニ
トラレス依之平城ニシテ沼澤カタトルヲヨシトス
トニ云是ニ叶ヒタルハ信列上田賀列小松シ是郡主ノ
居城ニヨキトシ武田家ニ於テ上列国峯ノ小幡上総ハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

先方ニテ基ヨリノ郡主タリ然モ上列ノ鎮ニナルニ亦大キニイヘハ信長公ノ御下ニテ諸国節々ノ歴エヲ以テイヘハ越前北ノ庄ノ柴田勝家ヲ北国ノ鎮トシテ其餘北国ノ国郡主ハ其下ニツキタリ然レハ郡主ノ居城ト云者モ其初メハ差別ナシ右ニ云結要本ニ論スル等ハ其理ヲツメテ云ル処ニシ故ニ其国家ニ於テ大禄ヲ請或ハ平侍ノ頭或ハ侍大将トナルヘキ者ハ其身ニ掛リテ城ヲ守ル処アルベキナレバ治世ト云トモ其當用ノ心掛テ知ベキ者カ

第十五

大将御出陣ニ跡城代ニ事ヲ託ス

城代ヲ準ラフ事

御大将出軍ノ御跡御館居城ヲ預ルノ役事ナキトキハ出軍ノ諸将敵ニ向テ戦功ヲナスニ留主ト成ノ城ヲ守ルヘシ名将ノ国政正シケレバ自国ノ親族朱々ノ民百姓迄異心逆謀ノ徒堂ナク敵居城迫来ル共モ希ナレハ武儀ノ働ナスベキ品ナキニ似タリ其国居城ノ預ル者敵ヲ手引シテ城内ニ入ルハ不及云一族類葉ニ黨シテ城ヲ奪ヒ父祖ヲ立出シ幼主ヲ追出スル迄モ其例多キ事ナレバ此役ニ於テ其心底ノ堅キヲ不

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

見ハ定難キ所ニ治国太平ノ時トイヘ尾此役ニ人ハ其変
計難シ秀忠公ノ御代御上洛ノ時酒井忠世ヲ以テ
江戸御城ノ留守タリ然ルニ誤テ御本丸御臺所ヨリ
出火殿中皆焼失忠世其過チヲ悔テ寺入シテ失命ノ
上意ヲ待上聞ニ達スルノ所ニ上意失火ハ是非ナキ事ニ
御城ヲ明テ寺入ハ如何シ唯焼土ニ起居シテ專ラニ
御城ヲ守ルヘキ事ト仰出サルトゾ是ニテモ知ベシ
能其利害ヲ察シテ可守之近ノハ賀府ニテモ知ベキニ
大坂冬陣ニハ奥村忠心入道横山山城守ト夏陣ハ
忠心ト共ノ枝宗仁尾ゾト其外小松ヲ初メ諸城皆々
御留守居アリ其内忠心ハ真古ニ荒子ノ屋敷ヲ不渡ル
ノ功アリ以来城ヲ預リテノ堅キ事ハ今更不可云ニ是
其實仕ト云ヘシ惣シテ留守居ノ諸士ノ支諸国
ノ定メ品々アリ国中諸組ノ内年々替々今年ハ誰
カ組ト定メテ残ル風モアリ或ハ小身ニシテ軍旅ノ
人馬與カノ士ヲ集メテ留守居トスルアリ勿論老
人幼少病身内證方ノ役人等居城ノ留守居番々
ル支ハ甲陽軍鑑ニモ見エタリ城代トゾハ一人其司也其人
不足ナレハ城番ト号シテ城代ニ指添是ハ少シ其品軽ノ
二三人モ有ヘシ国ニヨリ城ニヨリ城中ニ常居ノ屋敷ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

定メ置所モ有之或ハ又留守居トテ働ナキ者ト思テ
不同心ニ思フ者アリ夫ハ武備ノアラキニアリ戦国ノ
事蹟ヲ知ヘシ大将ノ留守ニ事アリタルハ近クハ慶長五年
上杉景勝退治ノタメ　神君伏見ノ城ニ御留守ヲ残
サレ東国ヘ御発向ノ跡ニ石田三成兵ヲ挙テ伏見ヲ攻
終ニ四将共ニ戦死シ或ハ天州ノ一揆蜂起ノ節モ近国
ノ諸城主在江戸タルニ留守居ノ家老兵ヲ催シテ
出張スル者多シ是等ヲ知テ治世ノ準拠トスヘシ

附リ

当時治世ノ城代勤ル面ノ様子

戦国ノ様子ハ右ノ如シ当時ノ諸国ノ主ハ隔年ニ
在江戸タルニヨリ城代トイヒ常ノ役ノ如クナルニヨリ
其勤ル人モ軽ク思フノ誤リ生ズヘキシ多クハ城代ハ
人ハ常々諸侍城中勤番ノ出入ノ支ヲ改メ知或ハ
惣テ其城ニツキタル支ハ大細支トナク是ヲ聞支シ
依テ治世ノ事繁キニウトミテ支ヲ等閑ニ本意ヲ
失ヒテハ城中ノ守衛肝要ノ所ヲ等ヲモ不知様
ニナリ行番人等ノ勤メ様ヲモ委ク不知只書付
ハカリヲ見テ支ヲ済スガ如キハ其怠リ甚シカルヘシ
近ク賀府ニテノ軽キ支ヲ以テイヘハ前田駿河守後源隨
入道

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

御城代タリシトキ 北国故或時大雪降ルニヨリ其役人道ヲ割事ヲ云付ルタメ雪ヲ堀ノ内エ埋シカト駿河守ニ尋ル所ニ殊外機嫌アシク必ズ堀ノ内エハ少シモ入ヘカラズ湯ヲワカシテ消スヘシトノ事タリシト云傳フ是等ノ細事トイヘトモ城代トシテハ城ニ心ヲ盡スヲ以テ称美スヘキ事乎 故ニ軽キ事迄ニ心ノ及フ所ヲ出ス者也 重キ事ハ猶更云ニ及ハサルヘシ

當

時大中分レ諸將城警衛第一

江戸ニ於テ御譜代大名十萬石内外ノ方々大手或ハ櫻田ノ兩下馬ヲ堅メ下乗ノ橋ハ百人組ヨリ勤メ其外御城内ノ虎口ハ御持筒弓ヨリ堅メ外構ハ御先筒弓ヨリ堅メテ勤ム惣構虎口々々ノ御番モ萬石以上ノ郡主領主ノ堅メトナリ外惣構ノ虎口ハ寄合衆五三千石以上ノ衆堅メラレ其外大事ノ節ハ御譜代大名衆其持口ヲ定メテ堅メラレ或ハ大事ノ様子ニヨリ所々ノ堅メ必ス火ヲ防クタメハカリニ非スト云ヘシ常事ノ外公家衆下向ノ御馳走或ハ上野増上寺等御法事ノ節ノ御堅メ等更ニ隙ナク諸方ノ御使或ハ請取火消等ノ勤メ年ヲ積テ費用繁ク難儀タリト云ト云然レ共城門ノ警衛等

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

外構ヲ堅ムル支ハ有ヘキ支カ古ヱ京都ニ四十八箇所ノ
篝リノ武士ト云モ諸国ヨリ上リテ勤ムト云モ當時モ
江戸ノ外国方ニテモ大国ノ主ノ下ニテ大身成諸將
トモ成ヘキ若キ人ハ常ニ花奢風流ヲ事トスルバカリ
ハ本意ナラズ勤ムル所有テ隣ナキトキハ自ヅカラ
馴テ功ヲ重子国家ノ政事ニ携ル役人ト成テモ
事ヲ辨スルニヨキト唯空ク怠ルノ類ニハ大祿ヲ汚スト云ヘキノミ故ニ其人
ト成テハ弥怠ル支ナク何分ノ勤ムル所ヲモ不可欠ノ
心懸ノ本意トスヘキカ

第十六

一城責の節侍大將心得の事

城責ノ支又大ト敵国ヱ働入ヨフトキ其道筋ニアル城
ヲ押當リ攻之或ハ近所ノ敵城其救ニヲ考ヱ或ハ押ヱ
ヲ置付城向城ヲ築テ人数ヲ篭置其將皆侍大將ノ役
ナレバ其戦術度量險易ノ利害ヲ知支ハ武功ノ專務ト
更ニ知ヘシ和漢ノ事跡攻法有支ト雖モ今世諸国ノ居城普請造
浅間ナレハ其儘乗取支モアリ敵ノ構ヱ
作其其手ノ能合ル如ノトハ思フヘカラス鹿相ナル擒上等ノ
支ト多クハ敵ノ本大將ノ後詰アルヘシ身ヲ捨テ出ル

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

後詰ナレハ是ヲ押留ル事最一大事ノ役ハ後詰ノ押
勢也其功ヲ争テノ無理ナル戦ヲ初ムルトキハ利ヲ失フ
事必定也其場所険要ノ地ヲ専トス其心得等更ニ
古傳ニ詳カ也

附り

敵城ヘ依テ攻ると不攻とすべく押のまゝ有し
或ハ付城向城を築き或ハ飛攻餓責水攻等
或ハ後攻し押勢善悪等戦出の風を知へき
事

是等ノ品々近代ノ事蹟ヲ以テ有増ヲイヘハ敵国エ
入テノハ必ス其境目ヨリ数城アルヘシ何レヨリ攻ントト
云ノ心當ナクハ末書下巻下九ニ云所ノ如ク第一ハ
軍配ヲ以テノ氣ノ立ノアレキ城ヨリ先ニ責レハ必ズ
餘ノ城ノ氣立モアシクナリテ落ルト也是信長公ノ
江州エ御働ノトキ和田山ヲ責玉フヘキヲ指置テ
箕作ノ城ヲ攻取玉ヘハ此箕作ハ通ノ城ナルニヨリ
観音寺ノ城ヲ初メ十八ノ城々悉ク落ル也是其
救ヒノ不及様ニ考ル也其餘必ス敵城アレハ責ル事
今川義元公ノ尾州エ發向有テ鳴海大高鷲津
丸根ノ四城ヲ攻落シ引断アリケレハ桶挟間ニテ信長公

急ニ懸リ玉フニテ義元公戦死アリ或ハ秀吉公天正
十八年小田原御發向ニ菰山中等ヲ攻落シ玉フト
イヘ𪜈慎ミ深ケレバ仕損シナシ或ハ利長公ノ慶長
五年ニ御出馬賀州小松ノ城ニハ地形足場アレキニ
ヨリ壓ヲ置テ大聖寺ノ城ヲ攻落シ玉ヒタルナリ
信玄公度々ノ合戦ニ城ヲ攻玉ヒ支多ク中ニモ三増合
戦ノ前関東発向ニ敵ノ數城ヲ攻落シ或ハ不攻シテ通
ノ合戦勝利ノ以後駿州ノ十餘城ヲ陽シ玉フナリ
勝頼ノ代ニ成テ未ダ大合戦ノ勝利モナクテ東美濃
ニテ十八ノ城ヲ責取玉ヒ畢竟長篠大敗ニ又ノ故ニ
大合戦勝利ノ後ハ自ツカラ城落シ或ハ信玄公遠州
久野ノ城順見有テ不攻シテ通ラルニ小幡上総ヲ
押ヘ備ニ残サル其十備ノ人數ヲ引上ルトキノ作法ヲ
末書下巻下ハニ委ク書タリ或ハ急ニ不落城ニハ付城
ヲ築テ守ル播州三木ノ城攻ノトキ敵ノ取出等
幾ツモアル中ヘ秀吉公付城ヲ三ツ築キ玉ヘハ三
木方ノ枝城ハ要地ヲ塞カレテ道路ヲ断タリトシ
付城ノ大キナルハ向城トモ信長公江州小谷ノ城ニ對シ
テ虎御前山ヲ本陣ト定メ玉ヒ信長公他方ニ働
キ玉フ跡ハ秀吉公ヲ守將トシ玉フシ或ハ謙信公ノ武州

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

山根ノ私市ノ城ヲ雅攻ニシ玉フハ後。堅固ノ泥ヱ仕寄道
ヲ作リカケテ城内ヲ壓カシ夜中ニ鐘鼓ヲ打テ責ル
城兵二ツニ分レ散乱タルヲ見テ大手ヨリ乗取玉フナリ
或ハ天正十八年 利家公 利長公ノ武州八王寺ノ城ヲ
攻取玉フモ筑紫陣ニ巌石ノ城ヲ乗玉フモ皆子細有テ
雅攻ニシ玉フ雅攻ニハ人多ク損ズルし或ハ勝頼ノ代ニ
東美濃飯挾間ノ城ヲ旗本衆攻ント望ヲ聞テ先衆
急ニ責落ス是モ雅攻し或ハ天正八年ノ九月勝頼ノ
東上野ヱ出馬大戸山上膳ノ三城傾見有テ通ラル所ニ
翌日膳ノ城ヨリノ不時ニ備ヲ出シテ迫合ヲ初ムルニヨリ武田

私市ノ山根

ノ惣人数大返シニシテ徒膚カニテ膳ノ城ヲ乗取ラル二代原
隼人深手ヲ負テ死ス是等ハ俄責ト云者し又晴信公十六歳
ノトキ信州海ロノ城ヱ取寄テ人数ヲ引上翌日取テ帰リ
赤明城ヱ取掛責落サルハ俄責ノ様子違ヒタル者し或ハ
水攻ヲ用ルハ 秀吉公ノ備中ノ高松濃州ノ竹ケ鼻
紀州ノ根来等ノ三所ニ用ヒ玉フノ外ニハナキ事し侍大将
タル人ハ城責ノ時節様子ヲ知テ其宜ニ叶フ如ク心掛ベキ
者し中ニモ後詰ノ押ヱ勢ハ懸待ヲ兼タル侍大将ノ勤ムル
所ニテノ事重キし戸石ノ城攻ニ甘利備前押勢タリシニ
村上義清出ラル甘利終ニ濃州岩村ノ城攻ノトキ

討死カ

馬場美濃守押勢トシテ　信長公三萬五千ニテ御出勢
アリタルヲ馬場八百ニテ東道三十里追之トアリ或ハ濃州
明智ノ城攻ノトキ山縣三郎兵衛押勢トシテノ是モ
信長公ヲ追掛タリ右ノ三ツハ甲州武田家ノ諸將ノ事ヲ
云又能州末森ノ城ヲ佐々成政攻タルトキ押勢ニ神保
久太郎ヲ置シニ利家公夜中ニ後詰シ玉フヲ不知
カ如キハ押勢ノ專ト云ヘカラズ

城責仕寄の付様或ハ一要条の首尾古法とも
迷ふ危ふしき條事

凡ソ仕寄ヲ付ルノ初メ武田家ヨリ信州苅屋原ノ城
ヲ攻ルノトキ米倉丹後カ工夫ニテ竹把ヲナシ牛ヲ
結テノ仕寄タリ其後諸方聞傳テノ氣遣ヒスル故
急ニ仕寄難ク相圖ノ火ヲ以テ夜中ニ敵ノ守リ怠リ
ヲ考テ仕寄ル事等モアリ或ハ天正十一年越前
北ノ庄ヘ取懸ルノトキ堀秀政ノ北ノ庄ノ町ニ火ヲ付テ
煙ノ内ニ仕寄ヲナシ或ハ天草ニテ鍋嶋氏ノ寄場足場
不宜ニ小高キ所ヨリ城内ヘ大筒ヲ打掛々々スル是ニ敵
味方モ心ヲ付テノ居ル間ニ悉ク仕寄タリトシ如此ニ手立
ヲ設クル事ヲ甲州流ニ一陣ニ一度ノ竹把トシ或ハ又
仕寄ニ不及急ニ責ル事モアリ堀ノ埋草或ハ山険ヲ登ル

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』　請求記号 848-189
ガラス使用

ノ仕様モアリ笠置ノ夜討ニ陶山ノ小宮山カ山峡ヲ登リシカ如キヲ以テモ知ヘシ大坂陣ニ石川氏ノ手ヨリ中黒道随ナド害舟ニ乗ヲ穢多ケ崎ノ取出ヲ乗取シカ如キ皆心懸ノ上ニアル事シ惣テ一番乗ハ郭々ニ依テ有之支ハ天州三ノ丸ハ鍋嶋氏一メリ本城ハ細川氏トゝカ如シ追手搦手東西南北ニ依テモアルヘシ濃州岐阜ノ城ノ追手ハ福嶋氏搦手ハ池田氏同時ニ乗トイヘトモ以テ一トスルハ作法シ如此ノ例ヲ知シ侍大将トイヘトモ自身ニモ乗事アル支ハ駿州蒲原ノ城ヲ乗トキ勝頼ト小幡弾正争テ乗弾正ハ討死スルシ前ニモ〻膳ノ城ニテ二代康隆人討死セリ天州ノ城ヲ乗トキモ鍋嶋氏本城ヲ乗トキハ細川氏トゝ争テ自身屏ヲ乗テ次シ手ヲ屓ルヽトシ賀府ニテモ大聖寺ノ城ヲ攻玉フトキ一番ニ山田勘六ニテ突落サル勘六ハ身代四百石ニテ近習ノ若士ナリシ此手ニテ死スル咄アル支シ其次ニ冨田蔵人是モ突落サレ討死冨田ハ七千石取シ其次ニ園嶋喜三郎是モ突落サレ討死是モ人持ノ嫡子タリ其次ニ奥村因幡ノ乗キカセテ一番乗トナル因幡ハ功者ノ家来有テ能時分ニ下ヨリ押上タリトゝ傳フ是ニテ是ヲ知ベシ侍大将ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

紛骨ヲ盡ス哀ヲユルカセニ思フベカラス
城ヲ囲むの法攻ル方知ヘキ事
是ハ敵ノ國主等其居城ニ籠ルヲ永ク囲テ攻ルソトキハ
手々ニ仕寄ヲ付ルニ至テ前後逐速ヲ爭テ其武功ヲ勵ス
ニ陣ニ一度ノ竹把等ノ習ハ爰ニアリ敵備ヲ出スヨキハ早ク
付入テ城ヲ乘取夜陰ヲ伺テ敵城内ヨリ夜討夜軍ヲ
仕懸ヘキ防ヲナシ味方陣中其構ヱ真艸動靜ノ利ヲ
計リ城ノ脇後エモ廻リ険固ニシテ守兵ノ薄キヲ考ヘ兵粮
水ノ手滿足不足ヲ知リ人氣飯霞ノ虚實ヲモ計知テ
仕寄場等ヲ敵ニ焼レズ城内ヨリ惣鉄炮大筒等ヲ放ス
ベキヲ考ヘテ不驚ハ信玄公駿府ノ御館囲部
次帝右衛門カ鉄砲ヲ以ヘ放ニ不驚カ如ク又驚ノハ大坂冬陣城
ヨリ放鉄砲ニ夜中大キニ寄手驚キ其以後又寄手
ヨリ惣鉄炮ヲ放チ久ルガ如シ或ハ攻落スニ至ル如キノ武
功モ皆其寄手ノ諸將計謀ニヨル支シ總而孫子ニモ五
ナレハ攻トテ城内ヨリ五倍ノ味方ナレハ攻シ十ナレハ圍ムト
テ城内ヨリ十倍ノ味方ナレハ圍トテモ大方ヲ云シ城篭
ル敵ヱ外ヨリ助ケアルヘキハ攻ルノ法シ外ヨリ助ケ
ナク一城ニ籠ル微カノ敵ハ圍ムノ法シトカ知ヘキシ
猶攻守一法トテ守ル法ヲ不知ハ攻ル支モ不叶支等ハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

更ニ軍書ニ依テ知ヘキ也 攻ルハ敵ノ心ヲ攻ル圍ムハ敵
ノ形ヲ圍ム等ノ論アル事也
城内ヘ計策大小に依く 擬作本大将ハなし
たまあそびして侍大将のおもて多き事
是又軍書ニ依テ知ヘシ 近代ノ事跡ヲ以テ有増ニ
イヘハ小田原籠城タル岩付ノ十郎氏房エ寄ノ羽柴下
総ヨリ音物ヲ仕カケロブリヲ見テ段々和談ヲ云カケ
事調テ圍ミヲ解キ 北條氏政兄弟礼ニ出ラルヽニ
極ルトキ剃髪ニトアリ下總カ約スルハ左ニハ非ストイヘトモ下總ハ
迯レト不取合是非ナク剃髪シテ出シトアルヲ半途ニテ
切腹トアリ 切腹無念ナラハ又籠城スヘシトノ事ナレトモ城
内ノ人数落散テ更ニモ不叶終ニ切腹也 是ヲ甲州流
時ノ音物其口振ヲ聞引出シ帰服ナトヽ云テ本大将ノ
不知所ノ侍大将ノ了簡違ノ様ニシテナス所也 或ハ
右小田原城内ノ松田尾張其子笠原新六両人エ
国ヲ以テ招ク其事顕レテ両将切腹ス 是ヨリ落城ニ程
ナカリシ也 是ヲ味方ヘ入ルト云也 或ハ大坂冬ノ御陣ニ
淀殿ノ居玉フ備前嶋ノ方ヨリ片桐東市正カ案
内トシテノ大筒ヲ打掛 是ヲ驚ヤカシ 或ハ金穿ヲ以テ城
内エ地下ヲ穿テ秀頼公ノ寝所ノ下エ人ヲ遣シ焼立シト

風聞サセ内々ニハ女使ヲ以テ其本ハ宿意ナシトテ和
談ヲ入テ事ヲ調エテノ上天下ノ軍勢ヲ空クシテ
モ帰リ難シ大坂ノ惣堀ヲ埋ルヲ業ニシテ圍ヲ解シト
一変シテ井伊氏ニ惣奉行ヲ仰付ラレ神君
秀忠公モ御上京ノ跡エ井伊氏下知シテ本城
バカリ残シ二之丸ヨリ以下ノ堀ヲ埋ル城方ヨリ
断ル所ニ普請人足ハ不構シテ埋メル翌春ニ
到テ違テ大坂ヨリ断ルヲ
カ虎相ナル間違エニテ惣構ノ堀ト云ヲ哀ヲ簡遑
エシメリ天下ノ人民ヲ以テ大坂ノ城ホトノ事ハ

何時ニテモ成ヲシ然レ共只今ハ去年ヨリノ陣中ニ
人々困ヲツカレメリ頓テ好ミニ仕サント有テ御取合
無之ヲ憤テ復陣起ル此トキハ城構ヘナクテ早ク
埒明ン是等ヲ大抵ト云シ事ヲ大キニ人ヘハ細川
頼之ノ楠正儀ヲスカシテ南帝ノ皇居ヲ出シ奉リテ
太上天皇トシテ敬ヒ奉ルニテ事鎮ルカ如キモ大抵ニ
ハ皆甲列流赤書以下ニ於テ論スル所ノ筋如此或ハ郡
主等ノ一城ニ楯篭ルハ是又何トソ好ム所有ヘキヤ支ヲ
聞テ軽キ支ハ其望任セ早ク和スルハヨキヨ景勝ノ
新発田周幡退治ニ六七年カヽリモフハ其本ハ景勝愛

セラル、小姓ヲ周旋盗ミ出シ連テ領分捕篭ル一端ハ途
モ其通リナレ共其子細ヲ聞届ケテノ上ニ中シノ支ハ免
テモ苦レカラシカシ故ニ結要本ニモ譜代ノ侍大将ト
縁者ナトニシテ和スヘシトノ信州先方相木市兵衛
ヲ山縣カ聟トスルノ類ニシ或ハ三州ノ奥平氏初メ
神君方ニテ一度武田方ニ降リ又 神君方ニ
成ニヨリ勝頼怒テ奥平氏ノ妻子ヲ磔ニス依
之神君縁者トナシ玉ヒ其ヨリ以来ハ不叛シテ
堅キカ如キ例ニ其餘品々アル事ニ或ハ子ナキ
者ニハ末子一門ヲ養子ニ遣ス事近代何ホ

トモアリ或ハ又立置テ害ニナルヘキヲハ急ニ倒ス
ヘシ破却程延レハ又隣境ヲ誘ニ引テアシキシ
小笠原与八郎 神君ノ背キ武田方ニナリ〆ル
カ如キ多シ依之一二郡ノ城下ニ取寄ルニハ必ス城
廻リ防戦堅固ノ地タルヘキニヨリ道ニ三筋ヨリ
一度ニ込入ニ相圖ノ旗カ狼煙夜ハ火ニテ遅速
ナキ様ニスヘシ敵ノ將ノ武功気情ヲ聞テナス
ヘシ上列ノ嶺ノ城主小幡圖書物ニ驚キ騒ノ
者ト聞テ内藤修理下知シテ夜中人馬牛ニ迄モ
火ヲ立サセテ金鼓ヲ以テ四方ノ山々ヨリ押掛ル

圖書周章スルヲ乘取リ如此ノ支アリ其餘他家
トイヘ𠮟近代ノ支跡ヲ見ヘシ侍大將ノ一心ヲ以テ散
ヲ制スル事多キヽ或ハ又侍ノ策ル一揆ハ擬作六カ
シキヽ信玄公岡部次帥右馬駿府ニ籠ルヲ招
キ和ヲ入引退ケテ礼ヲ請ラル又信州伊奈ノ百姓
一揆ヲハ押詰テ鎮メラル此トキモ内藤奉ルナリ
惣テ一揆トイフ𠮟堅固ノ地ニカタヨリテ程ヲ經ル
トキハ退治仕リキヽ其程ヲハカリテ治ルカ攻伏
ルカ將ノ能ヲ施ス所ヽ故ニ真將タル人ノ計謀
本大將ノ辭ハヲ待ハカリニテハナキ支ヽメトヘハ
明主トイヘ𠮟將能アラサレハ鷲鳥ノ羽翼ナキ
カ如シ軍書ニ載スル武功トテハ侍大將ノ心ヨリ出シ
テ勤メ知ルキ支多キヽ治世ノ諸將必ス心懸ヲ
捨ヘカラサル事カ

第十七

一小迫合ハ侍大將の當勢ニ彼我ノ勝敗ヲ含シ
小迫合ノ支是市其品多シ惣テナスハ本大將ノ胷臆ニ
テイヘハ大合戰ヽ是其機ヲ
アリ一手々々ヲ離シテイヘハ小迫合ヽ是其勢ニヲ
持ツハ侍大將ノ事業ニアリ一身ハ手足ノ用ヲナシ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

手足合シテハ一身トナルカ如シ故ニ先手各必進(ススミ)即退(シリゾク)
必退即進ノ術ヲ盡シ一ニ陰陽奇正懸待ノ節ヲ
施シ魁殿攻守横入週(メグ)備ノ程ヲ能シ夜戦夜守
伏戦火戦ノ変ヲ爲等一分々々ハ小迫合ニテ戦場
合シテ本大將ノ勝利トナル者ハ大合戦シ〻トハ
一番ノ碁(ゴ)ノ如ク一箇(カ)ノ劫ノ如シ侍大將ノ術ヲ盡
ス妙変ニ有テ武功ノ精粗ニ依テ勝利顕功ニ
差別アル変シ或ハ敵味方對陣ノ節互ニ手ヲ
場中ニ出シテ迫合ノ事アリ信玄公駿州薩埵山對陣ノ
トキ跡部大炊介(オホイノスケ)カ手松田尾張ニ追ルヽ馬場美濃

跡部ニ代テ松田ヲ追討セカ如キハ三段ノ法ヲ以テ一手ハ
松田ニ指向ヒ一手ハ真横ヲ討(ウツ)ヨリ松田敗ス猶一手ハ
トリトスル(トラントスル)シ或ハ城ヨリ出(イデ)ル敵ヲ追込事アリ遠州
高天神ノ城ヨリ小笠原與八郎出テ信玄公ノ備先ヲ懸ル
ヲ合戦セスニ追込ト丹藤修理ニ云付ラル丹藤人數ヲ
結テ懸(カケ)リ敵近(チカ)クニテ九右ヱ解(トキ)テ箕ノ手像ニ成テ押シ
包(ツヽ)ノ勢カヒヲ見テ小笠原城ヘ入(イル)ヲ杖(ツヱ)ト杖ハカリニ追詰(オヒツメ)ル
太鼓ヲ打テ丹藤人數ヲ繰引(クリヒキ)ニシメリ或ハ境目一方ヱ
出テ敵ニ切勝(キリカチ)ヌリ小山田兵衛尉武州八王寺(ハチワウジ)ヨリ於ノ
北條衆ニ打勝ハ初メ一手小山田旗本ヲ小山(コヤマ)ヱ押上(アゲ)テ

其次一手ヲ右ノ澤エ付テ敵ニ向ヒ又一手ヲ續テ出ス又一手ヲ左ノ方ノ山ノ根ヲ遠々ト廻シ旗本ノ旗ヲフルヤイナヤ一二ノ手急ニカヽリ廻シ備ヨリ矢玉ヲ放ツニヨリ北條衆左右前後ノ敵ヲ周章シ敗軍小山田ハ猶一手ヲ山ノ陰ニトヽリ殘ス又秋山伯耆守濃州上村ニ於テ美濃三河衆ニ切勝モ秋山カ勢一二三手ノ敵ニ向ヒ旗本トトリ備ヲ左ノ山エ押上ケ敵エ矢玉ヲ放ツニヨリ勝利トナル小山田秋山ハ廻シ備ヲ能用ルナリ或ハ可出敵城ヲ押ニル支アリ小幡上總遠州久野ノ城ヲ押ントキ十備ヲ二段ニシテ備エ引上ルトキ竪ニ備ヲ立カエ。本道エ出ルトキ一二ノ沢等不遍繰引ノ準拠トナル事ト雖書下巻下ハニ出スノ圖リ或ハ焼働キノ備定メ衛軍鳥行ノ定法アリ急事ニハ粒子乗ヲ用ルコト原美濃上州鬼ノツラニテ百人ノ足軽ヲ三ツニ乗分テ一ツハ焼働ヲナサシメ一ツハ衛軍ニ立テ宿エ働入一ツハ一行ニ立テ敵ヲ押エ或ハ火戦ヲ以テ敵ヲ押エ馬場美濃守小田原発向ニ松田屋敷ヲ焼ニ敵ノ来ルヘキ道ノ筋々ニ薪ヲ積テ火ヲ掛通路ヲ断シ心安ク松田屋敷ヲ焼シ或敵ノ備漫リナルヲ見テ鳥ヲ入ルハ乗込ナトヽ云小幡豊後上州廣木ニテ是ヲ用エ或ハ敵ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

馬入ノナシ来ルニハ防ノ之ノ備ヲ設ノ板垣信形カ信州ノ
樂岩寺ニ向ノ大物見ヲカケ樂岩寺ニ追返サルヽ
ヲ原美濃足輕三十バカリ徒歩ニテ連出テ追返ス々
ガ如シ是ハ甲陽軍鑑ニ出タル武田家ノ諸將ノ大所ニ
シテ秀タル業シ其餘諸國ノ事蹟ニ依テ秀タル
働ヲ知ヘシ一二ヲイヘハ近クハ賀府ニ於テモ天正十二年
十三年越中ニ向テノ取合ニ度々村井豊後守ヲ
初メ戰畧ヲ施ス事ヲ知ベシ或ハ慶長五年淺井縄手
ノ迫合ニ太田但馬守奥村河内守早ノ守返シテ勝利
ヲ得シノ類ヒアリ他家トイヘ共其働キ記録ニ見テ
其虚實ヲ辨ル將ノ能ヲ盡スヲ察スヘシ此餘際限
ナキ事ハ書盡スニ不遑是皆將ノ能シ或ハ夜陰夜討
夜軍ヤ夜込夜働夜事等ノ品敵又夜戰ヲナシ来ルニハ
夜守ノ法重々アリ或ハ藁葭殿材木醫薈ノ地ニテハ伏
奸ノ手段ヲ設ケ敵ノ伏兵ヲ搜スノ武功モ童々シ將
トシテノ不知ヘハ何ヲ以テ勝ヲ求ンヤ大合戰ノ先ヲ
ナストキ進退早速ノ変ニ乘シテ其利ヲ察シカラヲ
盡ス支ハ初ニ書ヘル所ノ趣キニ本大將
ノ所行ト侍大將ノ所行トノ分々ル支ヲ知ベシ其證
トスル軍書或ハ記録或物論之武功等ノ眞僞虚実

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ノ知ㇾ変ハ不ㇾ知者ニ立帰リテノ其ㇾ変其業ノ成ト不ㇾ成ト
ヲ観察シテ視ベシ我兵法ノ一途ノ奥秘ヲ明ラメ
知トキハ闇夜ノ東雲ニモウケテ白日ノ光映ニ物色
ヲ辨ㇾ知カ如ノナラン國ニ将タル人ハ必ス知テ
働ノナスベキ者カ戦国英勇ノ跡ヲ見テ成
安カラント譲テ怠ルハ治世ノ庸愚ノ誤リノ甚シ
キトゝスベキニ将タル人戦テ不ㇾ勝ハ何レノ日真耻
辱ヲ雪ンヤ主トゝス将トゝス真程ヲ知テナスハ
智覚ノ名仁名将タルベシ真程ニデコソナケレ
治国ノ諸将猶知ベキ変乎

附り

我備ヲ嘗シテハ毛侍大将多クハ討死の挙
凡ソ戦ヲ合スル変ハ不ㇾ戦以前ニ其勝利ヲ見テ
初ムトイヘ𪜈ノ乱変シテ敵ニ勢ニヲトラシ我備ヲ
テラル、トキハ其将討死ヲ遂テ云分トスルニハ非
ス討死ヲ遂ル期ニ到迄イチヲ砕テ働クシ
故ニ名護屋尾張守ノ佐世左衛門三命ニ射テ
トラレ或ハ人見本間カ無理ニ敵中エカケ入テ討死スル
ノ類ニトハ思フベカラズ武田家ノ諸将戦死ヲ
遂ルヲ見レハ戸石合戦ニ真利備前守横田備中ノ

両将討死スレ共未タ備ハ不(ん)崩内ニ山本勘助カ術ヲ以テ
勝利トナル上田原合戦ニ板垣信形敵ヲアナトリ弓断ニテ
戦死ス或ハ海野平合戦ニ武田方ノ旗ヲ二町程シ
サレトイヘ(モ)小山田左兵衛討死セサルハ右ノ方小山田備中ハ
越後方ニ勝テ二町程敵ヲ追中ノ栗原左衛門ハ進テ静ニ
懸ルニヨリ景虎公人数ヲ揚ラル依テ左兵衛討死スル程
ノ間タナシト見エタリ常田(トキタ)合戦ニ小山田備中討死シ小山田
左兵衛栗原左衛門ハ深手ヲ負テ後ニ死ス是我備ノ崩
レタルニヨリ河中嶋合戦ニ諸角豊後典厩信繁ノ両将強ク
敵ヲ防テ戦死ノ遂三増合戦ニ浅利式部討死セル(モ)備ノ不崩
味方原合戦ニ神君ノ御旗本ヲ以テ山県三郎兵衛カ備
ヲ押立ラル山県モ討死タル(キ)所ニ勝頼ノ横入テ勝利トナル
ニヨリ山県モ守返ス同時馬場カ先ノ北条氏ヨリノ加勢アル
清水太郎左衛門備崩レタルニヨリ討死ヲ遂長篠合戦ニハ
馬場美濃内藤修理ハ前宵ノ諫言勝頼ノ不用ヲ以テ
速カニ戦死ヲ遂山県ハ強ノ三川衆ト迫合ヲ以テ鉄炮中リ
死スル真田源太左衛門同兵部父屋右衛門尉望月殿原集ル
安中左近横田十郎兵衛三枝勘解由左衛門等皆々迫合ニ
ハ勝ヲ敵ノ柵際迄押詰ルトイヘ(モ)鉄炮ニ中テ死ス
是勝頼ノ無理ナル所ヲカヽリ玉ヲ故如此諸将ハ勇ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

不屈トイヘ𪜈戦死ニ到ルシ其外此戦ノ朝高坂源五郎ハ
長篠ノ城ノ押エタヘ𪜈戦ニ不利ニヨリ敵城ヲ出テ戦ヒテ
高坂モ討死ス武田兵庫殿縄無理之介五味與三兵衛
飯尾弥四右衛門ハ鳶ヵ巣ノ城中ニ戦死ス如此皆勝頼ノ一ツノ
誤リヨリ生ストイヘ𪜈諸将ハ忠勇ヲ不屈ト云者ノ扱多ハ
戦死ス諸将ノ験ヲ敢ニ不渡シテ渡シテ取テ帰ルハ武田家
ノ風ト其餘他家トイヘ𪜈戦ヲ不利ハ其将多クハ
戦死ス記録ニ見ヘシ其死スヘキ朝ヲ不死シテハ却テ
ヲ恥辱ヲ受唯有ル所ハ戦勝ヲ要トス故ニ常ニ士ヲ
練法ヲ正シテ・タトヘ戦死スト𪜈モ備ヲ不崩トハ

武田家練兵ノ上ニアルカ将タル人ハ必ス其勝敗ニツ
キテノ武功諸士トハ格別ナルヘキ支ヲ常々了簡
ヲナシ置ヘキ者乎

諸将トいへ𪜈闘戦ニ自分ノ働モ亡有
之事

タトヘ本大将トイフ𪜈闘乱シテ敵身近ク立来ラ
ハ其鋪ル所ヲ拂ヒ敵ニ切勝ノ術ハ不知シテ不叶ヒ
上古ノ主将カ量藝術ヲ施シ指當ル敵ヲ制セ
ラレタル事一々不及云ニ足支之働ク所モ爰ニ到テハ
同事ニ然ルニ諸将ノ衆卒ヲ靡ケテ進ミ戦フ

ノ節自然ニハ其大将自身ニ先登ニ進ミ衆卒ヲ
励マシ進マスル事モアリ或ハ敵ノ一虚ヲ見テ不失
間ニ不容髪ノ位ニ到テハ人ニ下知スル間モナキニヨ
リ自身鑓ヲ取テ進ミ或ハ自身城ヲ乗険ヲ
越或ハ一騎カケ出ス等ノ業モ自然ハアル事也一二
ヲイヘハ山縣三郎兵衛飛州ノ敵ノ虚ヲ見テ一番ニ
鑓ヲ入或ハ勝頼ノ味方原合戦又ハ三州吉田ニテ
城際ノ迫合等ニモ度々鑓ヲ合サル或ハ駿州蒲原
ノ城責ニ勝頼ト小幡弾正争テ一番乗ヲナシ或ハ
天州ノ上下鍋嶋氏自身城ヲ乗ラル或ハ刀根山

ニテ信長公御自身一騎カケ出シ玉ヒタルニ諸将ノ
内ハヤカケ出スアリ或ハ信玄公モ薩埵山ニテ一騎
カケ出シ玉フ事等アリ事蹟ニ依テノモ知ヘシ更ニ
足之抄撰功之巻ニ委ク論之或ハ孫子講註ノ
過則従ト云所ニモ粗論ス之

小迫合大合戦共に侍大将の戦場作法侍と
士衆を励ますをハ言葉の采幣アリ何も
手本をしめし身を切に振る事
軍法之巻ニモ大将詞ノ采幣ニツノ事トシテ
一ニ戦場ニテ敵味方ノ批判ヨケレハソレニテ味方勇ム

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

こゝに見切しと有るは近ノタトヘテイヘハ信玄公ノ駿
州ニテ沖津ノ廣ミノ此方へ取敵ノ北條衆ハ薩
埵ノ山上ニアルニ折節正月半ノ寒空ナレハ酒ノ諸勢
士ニ給ヒテノ上ニ酒呑タル味方サヘ寒キニ敵ハ山上ニテ
サゾ寒カラン味方此勢ヒニイサ乗取ト有テ節
所ノニツ郎座ニ乗取トシ又大坂夏陣五月七日
越前ノ先手本多作左衛門下知スルハ敵ハ寄合ノ
浪人者相手ニ不足トイヘヒ當手ヲ向フハ眞田左衛ニテ
武功ノ將メリ討ノ手柄ナセトイヘハ衆卒色メ
キタルガ立直シ終ニ真田ノ討取トなし是等ヲ以テ
例シテノ何ホトモ有ベシ敵味方ノ利ノ輕ク説テ下知
スル支シ惣シテ甲州流ハ心詞形三段ノ采幣ト
論ス手ニテフル所ハ形ノ采幣人ノ下知スル者ノ必
ス手ニカヽル物シ心ノ采幣ハ御大將ノ弓箭ノ
心上ニヨル所ノ根本武備不怠ノ佐ノミナリ詞ハ
ノ采幣ハ侍大將足輕大將ノ用ル所畢竟ハ敵
ノ色ノ見切心ス勝ヘキヲ見付テノ上ニモ唯カンレト
ハカリニテハ衆心不進ニヨリ味方ノ利スヘキノ説テ
下知スルノミシ更ニ軍法之巻等ニ依テ心詞形三ツ
ノ采幣ノ知ヘシ詞ノ采幣ノ出レトセハ心形ノ二ツハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

必ス不知シテ不叶ト又見切ノイヘハ敵味方ノ
盛實厚薄表裏行営備城大小軽重地形険
易遅速動静ノ変化ヲ知ヲ云如此ナトキ兵法ノ
奥儀ノ盡シ知ルノ上ニアラズハ不叶カ如シトイヘ共
支程ニテニハ非ス共足ル扨仆候之巻ニ出スホ
トノ事ヲ知ハ事調フヘシ更ニ知ヘシ戦国ノ勇将
智将ノナス所ノ跡ハ則治世ノ亀鑑トナル事
ナレハ必ス治世ノ諸将学ヒシラスンハ何レノ時カ其
見切ヘキ矩ヲ知ンヤ勝敗ハ大トナク小トナク只ニ
勢ヒヲ持ツノ内ニ勝ツ事ヲ生ス一隊ヲモ司ルノ将ハ衆卒
一致ノ勢ヒヲ持スル事ナレハユルカセニ思ヘカラズ
侍大将物見ニ初ル事一番ニ沖大将沖見定
或ハ沖所見ル格ヲ知ルヘキ事一
凡ソ物見ハ敵ノ色ヲ未然ニ察知スル事ヲ其習ヒ
一二ニ不限諸士ヨリ以上諸役者ニ至ル迄勤ル事
ナレ第一ノ當職ハ使番ノ役タリ別ニ仆候ノ事
ヲ知ヘシ此所ニハ述盡シ難キ故敵合ノ様ノ
子知難キトキハ侍大将自身見ニ出テ是ヲ変スル事
アル事ナレ遠列時方ケ原合戦ノトキ小山田兵衛尉カ手ノ
上原能登カ物見ニ其利ヲ述ルニヨリ兵衛尉モ出テ物

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

見シ信玄公エ告ルニ又武者奉行ノ室賀大和入道ヲ物見ニ
遣ハサレ上原(ウエハラ)カ云所宜キニ依テ一番合戦ハ山縣三郎兵衛
ノ筈タレモ小山田ニ一番合戦ヲ給ル也然レハ其利ヲ決
スル等ノトキ如此然レ共常ノ物見ト違ヒ侍大将ハ
馬験一本ヲ為持出ル也左アレハ遠クノ味方ヲ離レ
出ル事ハ叶フヘカラズ又御大将ノ御見定ニ御出ト云
ハ信玄公豆州三嶋ニテ北条氏政ト御對陣ノトキ卅町
ハカリノ所ヲ五町ホト御出トアリ尤使番不残或ハ諸
役人ハ御意次第侍大将モ御意次第ノ御供シテ
其利ヲ御相談決スル事也或ハ大坂冬ノ御陣ニモ

神君敵城ヲ御顔見ニ御出アリ是必ス本大将ノ
御自身御見定(サダメ)メ或ハ御顔見アリタルトテ敵ノ
様子一々ニ見エルニテハナシトイヘモ諸将諸役者ト
共談セラレ御見分ニ事ノ決定スルヲ以テ諸人ノ
安堵ヲナスタメ也細カナル事ハ小物見段々ヲ以テ
見ル事也更ニ知ヘシ物見ノ度量品々アル事ヲ故ニ
是等ノ様子ヲ知テ侍大将ノ物見ニ出テ事ヲ決定スヘキ
時ハ御顔見等ノ事ノ次也輕キ者也或ハ又侍大将モ
自分ニ物見ヲナス等ノ事ナラハ馬験ヲモ残シ置テノ
出ベキ事餘ノ人ノ物見ヲナスニ替リ有ベカラズ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

此兩様ヲ知ヘシ故ニ侍大将ノ物見ヲ撰ムセサルト
キハ敵ヲ見切ル支不叶トキハ
詞ノ来幣不整詞ノ来幣不整トキハ小迫合
勝利ヲ得ル事難シ小迫合ハ畢竟大合戦ノ勝ノ
基ヒ(もと)ヨリ依テ侍大将ヨリ人物見ノ品ヲ知ヘキ支カ
治世ト(ヒ)イヘ(ヒ)御大将ノ御自身ノ御見分ニテ済(すム)支
モアリ家老ノ見分ニテ済支モアリ諸侯ノ見分ニテ
済支モアリ是皆物見ニ重々アルカ如シニテ安シニテモ
事ノ重キハ其見分ノ人又重(ヲモ)キシ是等ノ品ヲ知テ
戦国治国ニ心得有ヘキ者乎

右侍大将ノ巻紙數多キニヨリ分テ二巻トス
第一章ヨリ第十七章迄附章共ニ六十一箇條
此上巻トス亦第十八章ヨリ第廿五章ニテ
附章共ニ廿七箇條ハ此次下巻トス上下巻合テ
廿五章附章共ニ八十八箇條シ

有澤武貞

右侍大将ノ巻上ハ享保六年辛丑二月廿日ヨリ
三月廿一日迄十四箇日ノ暇ノ拾ヲ書之

賀州金澤乾隅堀川於二柄老亭一作之
習軒有澤平武負字伯斗森水子書之終

右墨附百十四葉

森水子

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

848
189

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用